



創立 1953

講 義 概 要

2025 年度

関西保育福祉専門学校

【 目次 】

「講義概要」各科目の目次		
授業科目名	担当教員	ページ
キャリア演習	専任教員	6-7
日本国憲法	齋藤 光	8
社会福祉	山下知一	9
子ども家庭支援論	藤井和子	10
教育原理	濱名陽子	11
保育者論	阪本 満	12
乳幼児の心理学	清水智子	13
子ども家庭支援の心理学	阪本 満	14
子どもの食と栄養	東 芳子／小島京子	15
教育相談	清水智子	16
健康（指導法）	平野忠男	17-18
人間関係（指導法）	吉田しのぶ	19-20
環境（指導法）	平野忠男	21
言葉（指導法）	藤田千波	22-23
表現（指導法）	榎本優人、平野忠男、藤本元美	24-25
保育内容総論	藤井和子	26
乳児保育Ⅱ	下里里枝	27
子どもの健康と安全	岩崎 巧	28
社会的養護Ⅱ	山下知一	29
子育て支援	阪本 満	30
特別支援教育・保育概論B	清水智子	31
保育・教育課程論	吉田しのぶ	32-33
子どもの造形B	藤本元美	34
ピアノ基礎II	榎本優人、有居 恵、遠藤優美、数井紗知	35
ピアノ応用	榎本優人、遠藤優美、数井紗知、福田真梨奈	36
子どもの運動遊び	齋藤 光	37-38
保育・教職実践演習	藤田千波、吉田しのぶ	39-40
教育実習I <集中実習>	専任教員	41-42
保育実習II	専任教員	43
保育実習指導II	専任教員	44-45
基礎演習	専任教員	46-47
体育理論	齋藤 光	48
スポーツ実技	若杉祥太／齋藤 光	49
I C T の活用（基礎）	若杉祥太／谷口一也	50
英語コミュニケーション	平田淳一郎	51
保育原理	吉田しのぶ	52
子ども家庭福祉	岩崎 巧	53
社会的養護 I	山下知一	54
発達心理学	清水智子	55
子どもの保健	高師瑞希／宮田京子	56
子ども理解と援助	阪本 満	57
教育の方法と技術	藤井和子	58-59
子どもと健康	齋藤 光	60
子どもと人間関係	藤井和子	61-62
子どもと環境	平野忠男	63
子どもと言葉	藤田千波	64
子どもと表現	榎本優人	65
乳児保育 I	下里里枝	66
特別支援教育・保育概論A	清水智子	67
子どもの造形A	藤本元美	68
音楽基礎	榎本優人	69
ピアノ基礎I	榎本優人、角谷早希、数井紗知、榎原契保、福田真梨奈	70-71
I C T の活用（応用）	平野忠男	72
教育実習I <隔週実習>	専任教員	73-74
教育実習I (教育実習指導I)	専任教員	75-76
保育実習I	専任教員	77-78
保育実習指導I	専任教員	79-80

【授業科目名】 キャリア演習 <実務経験のある教員による授業科目>			【担当教員名】 専任教員		
【授業形態】 演習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 30回	【単位数】 2単位	【開講時期】 通年 (長期履修:前期)	【対象学年】 2年
【授業の概要】 基礎演習で修得した保育者として必要なコミュニケーション能力を基に、保育者としての専門性、知識、技能がさらに向上できるよう、卒業生や保育所長、幼稚園長等から、現場における仕事内容を聞き、社会人としてどうあるべきかを考え、就職活動への意欲を高める。 また、プレゼンテーション能力獲得へ向けた必要なスキルを身につけ、人前で発表することができるようになる。					
【授業の到達目標】 1. 建学の精神それに基づく「教育目標」、学院の歴史について理解を深める。 2. 主体的に学び、実践する姿勢を身につけ、積極的に意見を発表・伝達するために、本を読み、自ら考え、文章に表現するなどの基礎的な能力を活かし発表する力を培う。 3. 学生相互や担任教員との豊かで円滑な人間関係の基礎を基に社会人として必要なコミュニケーション力を身に付ける。 4. 社会で活躍するための、キャリア形成の能力を身につける。					
【授業計画】 第 1回：初回オリエンテーション 時間割・学年暦の確認 今後の流れ等の確認 第 2回：クラス目標決め クラス役員決め 第 3回：教育実習Ⅰ(幼稚園)評価表開示 第 4回：校外学習実施に向けた準備 第 5回：校外学習を通じ戸外で運動する楽しさや社会人としてのマナーを守り行動する 第 6回：協力して校外学習に取り組み、交流を深める 第 7回：保育実習Ⅰ(施設)評価表開示 第 8回：保育実習Ⅱ(保育所)に向けた準備を整える 第 9回：就職活動について理解する 第10回：就職セミナー(先輩を囲んで) 第11回：実習報告を行う 第12回：教育実習Ⅰ-②に向けた準備を整える 第13回：救命救急講習を受講し、命を守る行動について考える 第14回：今後について再確認 学院祭出し物について話し合う 第15回：ベンチマーク・履修カルテ作成 自己課題と向き合う 第16回：実習報告を行う 第17回：エピソードトーク① 第18回：エピソードトーク② 第19回：保育士登録手続きを行う 第20回：幼稚園2種免許取得手続きを行う 第21回：租税教室(外部講師)を受講し、「税」について知識を得る 第22回：企画達成に向けた個々の役割分担及び運営方法のシミュレーションと実施 第23回：共通の目標の達成に向かって協調性や企画運営する力を身につける 第24回：役割に責任を持ち、目的遂行のために協力したりトラブルに対応する力を身につける 第25回：教育実習Ⅰ-② 評価表開示① 第26回：教育実習Ⅰ-② 評価表開示②					

第27回：2年間の総まとめ① ポスター制作
第28回：2年間の総まとめ② ポスター発表
第29回：ベンチマーク・履修カルテ完成 自己課題と向き合う（最終）
第30回：まとめ・振り返り 定期試験対策

【評価の方法】

定期試験50% 課題・提出物50%

【授業時間外の学修（準備・復習）】

授業前後30分程度が望ましい

【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】

「知へのステップ」 学習技術研究会 くろしお出版 ISBN9784874247891

「保育のマナーと言葉」 わかば社 ISBN9784907270353

学内にて配布する講義概要（シラバス）・学生便覧

【参考書・参考資料等】

幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、保育所保育指針解説

【授業科目名】 日本国憲法			【担当教員名】 齋藤 光		
【授業形態】 講義	【必修・選択】 必修	【授業回数】 15回	【単位数】 2単位	【開講時期】 前期	【対象学年】 2年
【授業の概要】 身のまわりの事例を取り上げながら、憲法が日々の生活に深く関わっていることに気づくとともに、憲法の基本的な用語とその背景にある考え方についても理解する。加えて、ニュースをはじめとする資料を参照しながら、保育と日本国憲法の関わりについても理解する。					
【授業の到達目標】 日本国憲法の基本理念を中心に、人権、統治機構、歴史的変遷、そして日常生活や保育との関わりについても理解し、説明することができる。また、関連する社会問題や論点について、授業での学びを活かしながら、根拠に基づいて自身の主張を述べることができる。					
【授業計画】 第 1回：憲法とは何か、法とは何か 第 2回：政府やルールの必要性、権利と義務 第 3回：憲法の歴史と理念 第 4回：民主主義 第 5回：平等と公正 第 6回：自由権 第 7回：社会権 第 8回：子ども・未満年齢者の人権 第 9回：私人間効力 第10回：統治機構（国会・内閣・裁判所） 第11回：地方自治と自治体格差 第12回：新しい人権 第13回：保育事故対策（グループワーク） 第14回：保育事故対策（発表） 第15回：授業のふりかえり					
【評価の方法】 1 授業内容に関する小レポート（35%） 2 調べ学習とグループワークの成果物・発表（15%） 3 定期試験（50%） 評価の方法1～3について、その詳細や留意点は授業内で連絡します。					
【授業時間外の学修（準備・復習）】 ・各回のテキスト該当箇所を読むことを通じた、積極的な準備（予習）・復習を期待します。					
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 ・『保育者のための法学・憲法入門』成文堂 高乗正臣（2023） ISBN:9784792307233					
【参考書・参考資料等】 ・『保育士・教員のための憲法』八千代出版 内山絵美子・坂田仰・田中洋・山田知代（2023） ・『保育判例ハンドブック』信山社 田村和之・古畑淳・倉田賀世・小泉広子（2016） ・『檻の中のライオン』かもがわ出版 棟大樹（2016） ・『法律学の始発駅』有斐閣 長谷部恭男（2021） ・『新版 主権者はきみだ：憲法のわかる50話』岩波書店 森英樹（1997） ・『大事なことは憲法が教えてくれる：日本国憲法の底力』新日本出版社 森英樹（2015）					

【授業科目名】 社会福祉 <実務経験のある教員による授業科目>			【担当教員名】 山下 知一		
【授業形態】 講義	【必修・選択】 必修	【授業回数】 15回	【単位数】 2単位	【開講時期】 前期	【対象学年】 2年 (長期履修者対象外)
【授業の概要】 社会福祉の基本理念と歴史的変遷、概念を学んだ上で、現代社会が抱える福祉の課題を知る。 また、社会福祉に関連する分野である子どもと家族の福祉、障害児・者の福祉、地域福祉、社会保障制度、低所得者や高齢者の福祉について概観した上で、ソーシャルワークの視点や実践的な考え方について学ぶ。					
【授業の到達目標】 社会福祉が私たちの生活や人生に関わる身近な領域であることを知る。 社会福祉の基本理念と歴史的変遷、社会福祉の概念、社会福祉に関連する分野について把握する。 ソーシャルワークについて学んだ上で、実践的な活用方法について考察し、知識整理する。					
【授業計画】 第 1回：オリエンテーション、授業についての説明、社会福祉と私たち 第 2回：社会福祉と現代的課題～私たちが生きる社会～ 第 3回：社会福祉の理念と歴史的変遷① 第 4回：社会福祉の理念と歴史的変遷② (概念を含む) 第 5回：子どもと家族の福祉① 第 6回：子どもと家族の福祉② 第 7回：社会福祉と社会保障 第 8回：障害児・者の福祉① 第 9回：障害児・者の福祉② 第10回：地域福祉 第11回：社会福祉における相談援助-ソーシャルワーク① 第12回：社会福祉における相談援助-ソーシャルワーク② 第13回：社会福祉における相談援助-ソーシャルワーク③ 第14回：低所得者の福祉 第15回：高齢者福祉 定期試験					
【評価の方法】 「授業後の振り返りシート」 (50%) と 「定期試験 (レポート)」 (50%) の総合評価。					
【授業時間外の学修（準備・復習）】 社会福祉の授業で指定するテキスト及び授業資料、関連する資料や文献を調べて、読んでおく。					
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 『図解で学ぶ保育 社会福祉』. 直島正樹・原田旬哉(2015). 萌文書林. ISBN:9784893473929					
【参考書・参考資料等】 『社会福祉とわたしたち』. 一瀬早百合(2022). 萌文書林. ISBN:9784893473868					

【授業科目名】 子ども家庭支援論 <実務経験のある教員による授業科目>			【担当教員名】 藤井 和子		
【授業形態】 講義	【必修・選択】 必修	【授業回数】 15回	【単位数】 2単位	【開講時期】 後期	【対象学年】 2年 (長期履修者対象外)
【授業の概要】 家族・家庭の意義を把握し、子育ての場としての家庭が抱える不安、課題や子どもの人格形成に影響を与える大人の関わり方について理解し、保育者としての保護者支援、家庭支援の在り方についてグループワーク、ディスカッションをして理解を深める。					
【授業の到達目標】 1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解できている。 2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解できている。 3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解できている。 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解できている。					
【授業計画】 第 1回：子ども家庭支援の意義と必要性 第 2回：子ども家庭支援の目的と機能 第 3回：保育の専門性を生かした子ども家庭支援とその意義 第 4回：子どもの育ちの喜びの共有 第 5回：保護者および地域が有する子育て支援 第 6回：保育者に求められる基本的態度 保護者との信頼関係 第 7回：多様な家庭の現状と状況に応じた支援 第 8回：子育て支援施策・次世代育成支援施策の推移における自治体・関係機関等との連携・協力 第 9回：子育て家庭の福祉を高める地域の社会資源 第10回：保育所を利用する子どもの家庭への支援 第11回：地域の子育て家庭への支援 第12回：要保護児童等及びその家庭に対する支援 第13回：低所得世帯の児童や家庭に対する支援 第14回：特別な配慮を要する児童や保護者に対する支援 第15回：子ども家庭支援に関する現状と課題 定期試験					
【評価の方法】 定期試験 50% 課題提出 50%					
【授業時間外の学修（準備・復習）】 準備：授業前にシラバスを見て授業内容を確認し必要なものを準備する。 復習：授業の学びをノートに記入する。					
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 適宜資料を配布する。					
【参考書・参考資料等】 保育所保育指針解説 認定こども園教育・保育要領解説 幼稚園教育要領解説 子ども家庭支援論 保育の専門性を子育て家庭の支援に生かす 萌文書林					

【授業科目名】 教育原理 <実務経験のある教員による授業科目>			【担当教員名】 濱名 陽子		
【授業形態】 講義	【必修・選択】 必修	【授業回数】 15回	【単位数】 2単位	【開講時期】 前期(昼間) 後期(夜間主)	【対象学年】 2年(長期履修者対象外)
【授業の概要】 <p>「教育」という営みについて基本的な知識を獲得したうえで、「教育とはなにか」ということに関する自分なりの考えを確立する。そのために、教育思想に関する基本的な理解、教育の歴史に関する基本的な理解、教育の理念・目的に関する基本的な理解、生涯学習と社会教育に関する基本的な理解、現代の教育問題に関する基本的な理解を行う。授業の中で2回、教育のトピックについてのグループワークを行うが、その際には学んだ学習内容に基づき自分の意見を明確にし、グループの他の学生と意見交換を行い、その結果を発表する。</p>					
【授業の到達目標】 <p>教育の基本的概念は何か、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想においてそれらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのようにとらえられ、変遷してきたのかを理解する。</p>					
【授業計画】 <p>第 1回：オリエンテーション 第 2回：人間形成と教育（1）人間の育ちの特徴と教えるという行為 第 3回：人間形成と教育（2）人間形成と教育との関係 第 4回：教育の思想（1）西洋における教育思想①（コニウス、ロック、ルソー） 第 5回：教育の思想（2）西洋における教育思想②（ペストロツチ、ヘルバート、フレーベル） 第 6回：教育の思想（3）西洋における教育思想③（モーテソリ、デュイ、デュケム） 第 7回：教育の思想（4）日本における教育思想①（貝原益軒、中江藤樹、伊藤仁斎、荻生徂徠、広瀬淡窓、本居宣長など） 第 8回：教育の思想（5）日本における教育思想②（吉田松陰、緒方洪庵、福沢諭吉、沢柳政太郎、大正自由主義教育の学校創設者） 第 9回：教育の理念（1）日本では教育理念・目的はどのように定められているか 第 10回：教育の理念（2）各学校の教育理念・目的はどのようにになっているか 第 11回：現代社会と教育（1）幼児教育と初等中等教育の現状 第 12回：現代社会と教育（2）日本の教育制度の歴史：明治維新前後から現代までの学校制度 第 13回：現代社会と教育（3）生涯学習と社会教育：生涯学習の理念と日本の社会教育の現状 第 14回：現代社会と教育（4）主な教育問題に関する基本的な理解 第 15回：「教育とは何か」に関するまとめ 定期試験</p>					
【評価の方法】 <p>最終レポート（50%）、グループワーク時のワークシート（30%）、確認テスト（20%）</p>					
【授業時間外の学修（準備・復習）】 <p>次回までの宿題が出るので、次回のワークシートに書き込むこと。</p>					
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 <p>使用しない。</p>					
【参考書・参考資料等】 <p>授業中にワークシートと資料を配布する。</p>					

【授業科目名】 保育者論 <実務経験のある教員による授業科目>			【担当教員名】 阪本 満		
【授業形態】 講義	【必修・選択】 必修	【授業回数】 15回	【単位数】 2単位	【開講時期】 前期	【対象学年】 2年 (長期履修者対象外)
【授業の概要】 保育全般にわたる基礎的な内容・保育にかかわる今日的課題を踏まえ、保育者に求められる専門性について理解するとともに、自らが目指す保育者像を明確にし、保育者になるという自覚と意欲を高める。					
【授業の到達目標】 ①保育者の役割と倫理、制度的な位置づけについて理解する。 ②保育者の専門性について考察し、自分の意見を述べることができる。 ③保育者同士あるいは職場外のさまざまな職種・機関との連携・協働と、保育者の力量・キャリア形成の関係について理解する。					
【授業計画】 第 1回：オリエンテーション 保育者とは? 第 2回：保育者になりたいと思った理由 第 3回：保育という仕事の本質・特質を考える 第 4回：保育の免許と資格・保育者の現状 第 5回：子どもの思いや育ちを理解する仕事① 知るとわかる 第 6回：子どもの思いや育ちを理解する仕事② 内面と発達を捉える 第 7回：遊びにおける保育者の役割① 第 8回：遊びにおける保育者の役割② 第 9回：豊かな文化や自然との出会いをつなぐ保育者 第10回：個と集団を活かす保育者 第11回：関連機関や地域との連携を行う保育者 第12回：保護者や家庭と一緒に歩む保育者 第13回：学び合う保育者① 同僚性 第14回：学び合う保育者② 自己研鑽と成長 第15回：まとめ 定期試験					
【評価の方法】 定期試験 60%、提出物 40%					
【授業時間外の学修（準備・復習）】 発表の資料作成・課題提出					
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 新しい保育講座2 保育者論 汐見稔幸・大豆生田啓友（編著） ミネルヴァ書房 ISBN 9784623083329					
【参考書・参考資料等】 幼稚園教育要領解説 保育所保育指針解説等 その他の必要資料は授業内配布					

【授業科目名】 乳幼児の心理学			【担当教員名】 清水 智子		
【授業形態】 演習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 15回	【単位数】 1単位	【開講時期】 前期	【対象学年】 2年 (長期履修者対象外)
【授業の概要】 「発達心理学」での学びを踏まえ、子どもの発達過程および特徴について、そして愛着が子どもの育ちや学びの土台となることの理解を深める。また、学習理論や動機づけなど心理学の基礎的な知識を学び、事例を用いたワークに取り組むことや、子どものやる気を高める保育のあり方にについて考える。					
【授業の到達目標】 (1) 子どもの発達過程や特徴について理解する。 (2) 子どもが育ち学ぶには人との関わりが重要であることを理解する。 (3) 学習理論や動機づけなど、学びに関する心理学の基礎的な知識を身に付け、学びの意欲につながる基本的な考え方を理解する。					
【授業計画】 第 1回：育ちと学びの土台となる愛着について 第 2回：愛着の状態からみた対応のポイント 第 3回：遊びと学び 子どもは遊びを通して何を学んでいるのか 第 4回：遊びが育む心の発達 ①社会性 第 5回：遊びが育む心の発達 ②道徳性 第 6回：遊びが育む心の発達 ③想像力 第 7回：学習理論 ①古典的条件づけ 第 8回：学習理論 ②オペラント条件づけ 第 9回：事例をオペラント条件づけから考えるワーク 第10回：学習理論 ③観察学習 第11回：学びの動機づけ ①動機づけのプロセス 第12回：学びの動機づけ ②内発的動機づけと外発的動機づけ 第13回：学習性無力感について 第14回：子どものやる気を高める保育とは 第15回：まとめと振り返り 定期試験					
【評価の方法】 授業の課題提出 50% 、定期試験 50%					
【授業時間外の学修（準備・復習）】 事前にテキストを読んで「エクササイズ」に取り組む 復習のためにテキストや授業資料を理解し、課題に取り組む					
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 シリーズ知のゆりかご 保育の心理学 青木紀久代（編） みらい 9784860154844 (1年次の「発達心理学」で使用したテキスト)					
【参考書・参考資料等】					

【授業科目名】 子ども家庭支援の心理学 <実務経験のある教員による授業科目>			【担当教員名】 阪本 満		
【授業形態】 講義	【必修・選択】 必修	【授業回数】 15回	【単位数】 2単位	【開講時期】 後期	【対象学年】 2年(長期履修者対象外)
【授業の概要】 子育て家庭への支援について理解を深めるため、乳幼児期からの生涯発達を心理学の観点から概観する。また、家族・家庭の意義や機能及び子育て家庭をめぐる社会的な状況と課題をとらえ、保育者として必要な知識を習得する。					
【授業の到達目標】 ①乳幼児期からの生涯発達について、心理学の観点から基礎的な事項を理解する。 ②家族・家庭の意義や機能を知り、親子関係や家族関係について理解を深める。 ③子育て家庭の現代的な課題を理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 ④子どもの精神保健とその課題を学ぶ。					
【授業計画】 第1回：オリエンテーション 家庭支援と子どもの発達理解について 第2回：乳幼児の発達とそれに応じたかかわり① 0歳児 第3回：乳幼児の発達とそれに応じたかかわり② 0歳児 第4回：乳幼児の発達とそれに応じたかかわり③ 1歳児 第5回：乳幼児の発達とそれに応じたかかわり④ 2歳児 第6回：乳幼児の発達とそれに応じたかかわり⑤ 3歳児 第7回：乳幼児の発達とそれに応じたかかわり⑥ 4歳児 第8回：乳幼児の発達とそれに応じたかかわり⑦ 5歳児 第9回：児童期・青年期の発達の特徴と課題 第10回：成人期・老年期の発達の特徴と課題 第11回：保育を通しての子どもとのかかわり エピソードから読み解く 第12回：最新の保育事情から乳幼児の発達について考える 第13回：子どもを取り巻く生育環境・社会的状況 第14回：家族の意義・親子関係の理解 第15回：まとめ 定期試験					
【評価の方法】 定期試験60%， 授業ワークシート等の提出物40%					
【授業時間外の学修（準備・復習）】 グループ発表等の資料作成・課題提出					
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 事例で楽しく学ぶ 子ども家庭支援の心理学 芝野松次郎（編集代表） 中央法規 ISBN 9784805888438					
【参考書・参考資料等】 保育所保育指針解説等 その他の必要資料は授業内配布					

【授業科目名】 子どもの食と栄養			【担当教員名】 東 芳子 小島 京子		
【授業形態】 演習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 15回	【単位数】 2単位	【開講時期】 後期	【対象学年】 2年
【授業の概要】 子どもに対する栄養学の知識を正しく理解し、子どもたちに望ましい食生活や食文化を伝える力や「食育」を通して家庭や地域への支援ができる力をつける。					
【授業の到達目標】 健康な生活の基本としての食生活の意義や、栄養に関する基本的知識を学び、子どもの発育・発達と食生活との関連について理解を深める。 食育の基本である食生活指導及び食を通じた保護者への支援の在り方を学ぶ。					
【授業計画】 第 1回：オリエンテーション 子どもの健康と食生活の意義 第 2回：栄養に関する基礎知識：栄養素の消化・吸収 第 3回：栄養に関する基礎知識：栄養素の種類とはたらき（糖質・脂質・たんぱく質） 第 4回：栄養に関する基礎知識：栄養素の種類とはたらき（ビタミン・ミネラル・食物繊維） 第 5回：栄養に関する基礎知識：栄養素の種類とはたらき（水分） 「小テスト」 第 6回：栄養に関する制度：食事摂取基準 食事バランスガイド 食生活チェック「レポート」 第 7回：栄養に関する制度：食中毒予防と衛生管理 第 8回：妊娠期と授乳期の食生活 第 9回：乳児期の食生活 離乳食DVD視聴 第 10回：幼児期の発育・発達と食生活 第 11回：学童期・思春期の発育・発達と食生活 生涯発達と食生活 第 12回：食育の基本と内容 家庭や児童福祉施設における食事と栄養 食育媒体の作成（グループワーク） 第 13回：特別な配慮をする子供の食と栄養 窒息・誤嚥事故防止のための注意点 第 14回：アレルギー疾患をもつ子どもの食と栄養 食物アレルギーについての動画視聴 第 15回：食育媒体を使った「発表」 定期試験					
【評価の方法】 「定期試験」50% 「小テスト」20% 「レポート」10% 「発表」20%					
【授業時間外の学修（準備・復習）】 事前にテキストを読んで授業に臨む。授業中に、参考するよう勧めた動画や資料を授業時間外に各自で確認し、理解を深める。日常の食生活に学習した内容を取り入れ、自身の食生活を改善する。改善するのにどのようなところが難しいかなどを、実体験として把握し、食育に活かす。					
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 子どもの食と栄養 第3版 ・ 太田百合子、堤ちはる ・ 羊土社・ISBN9784758113809					
【参考書・参考資料等】 何を食べる？誰と食べる？どう食べる？食育の実践に向けて ・ 公益社団法人全国調理師養成施設協会					

【授業科目名】 教育相談 <実務経験のある教員による授業科目>			【担当教員名】 清水 智子		
【授業形態】 講義	【必修・選択】 必修	【授業回数】 15回	【単位数】 2単位	【開講時期】 後期	【対象学年】 2年 (長期履修者対象外)
【授業の概要】 園における教育相談の意義や特徴について学び、子どもや保護者を理解しようとする姿勢や態度について考える。また、園内での教育相談体制や外部機関との連携の必要性について理解する。さらに、受容や共感的理解などカウンセリングの基礎的な知識や技法を学び、現場でいかせるよう事例を用いたワークやロールプレイに取り組む。					
【授業の到達目標】 (1) 園における教育相談の意義や特徴を理解する。 (2) 教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解する。 (3) 教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携の必要性を理解する。					
【授業計画】 第 1回：教育相談とは 園における教育相談の特徴について 第 2回：子どもや保護者を理解しようとする姿勢や態度について 第 3回：子どもを理解する視点 ①子ども側の要因 第 4回：子どもを理解する視点 ②保育者側の要因 第 5回：話の聴き方体験 第 6回：カウンセリングマインドとは 第 7回：傾聴とは 第 8回：非言語的態度について 第 9回：言語による応答の基本 第10回：アサーション 私(I)メッセージについて 第11回：保護者の障害受容について ペアレントトレーニング 第12回：行動療法を保育現場でいかす 第13回：園内の教育相談体制と外部機関との連携 第14回：子どものこころのケアと保育者のメンタルヘルス 第15回：まとめと振り返り 定期試験					
【評価の方法】 授業のワーク・テキスト提出 50%、定期試験 50%					
【授業時間外の学修（準備・復習）】 事前にテキストを読んで「考えてみよう」に取り組む 復習のためにテキストの各章のまとめを行う					
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 スギ先生と学ぶ教育相談のきほん（第2版） 杉崎雅子 萌文書林 9784893473158					
【参考書・参考資料等】					

【授業科目名】 健康（指導法） <実務経験のある教員による授業科目>			【担当教員名】 平野 忠男		
【授業形態】 演習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 15回	【単位数】 2単位	【開講時期】 前期	【対象学年】 2年（長期履修者対象外）
【授業の概要】 保育現場においては、子どもの「健康」と「安全」は極めて重要な事項である。保育者は子ども一人ひとりに応じた健康・安全に留意するとともに、全体の子どもの健康を保持し、安全を守ることが求められている。また、子どもたち自身が自分の体を大切にすることや、遊びを通し、怪我や病気などを予防していくことも重要である。そのためには、子どもの心身の状態や発育・発達状態を理解する必要がある。また、子どもの健康には与えられる環境が大きく影響している。特に乳幼児期は子どもの心身の発達について保育者が十分に理解し「遊び」を展開することが重要であるため、その知識や技術を中心に保育者の役割について学習を進める。					
【授業の到達目標】 1. 子どもの発育・発達および具体的な活動について理解する。 2. 子どもが健康な生活を送るために望ましい環境について考えることができる。 3. 子どもの環境および遊びや活動における安全、健康について理解する。 4. 保育・幼児教育の基本を踏まえ、領域「健康」のねらい及び内容を理解する。 5. 子どもの発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定しながら、環境構成、教材や遊具の活用と工夫、保育の過程の実際について理解する。					
【授業計画】 第 1回：授業展開の説明／「健康」とはなにか／子どもたちを取り巻く環境からみる「健康」 第 2回：乳幼児期の身体の発達と健康 第 3回：乳幼児期の生活リズムと生活習慣① 第 4回：乳幼児期の生活リズムと生活習慣② 第 5回：乳幼児期の食生活 第 6回：『保育所保育指針』と「健康」 第 7回：乳幼児期の運動発達① 第 8回：乳幼児期の運動発達② 第 9回：遊びと「健康」 第10回：運動遊びに関わる指導 第11回：乳幼児期の安全① 第12回：乳幼児期の安全② 第13回：安全への配慮と子どもへの安全教育 第14回：領域「健康」と保育方法・領域「健康」の変遷 第15回：これからの保育と領域「健康」について考える 定期試験					
【評価の方法】 授業に対する取り組み（課題・提出物・発表など）[40%]，小テスト[30%]，定期試験[30%]					
【授業時間外の学修（準備・復習）】 ・ 基本的生活習慣や健康に繋がる振る舞いの中で自分が大切にすべきことを見いだし、日々意識して行うこと。 ・ 課題や小テストに向け各自復習を行うこと。 ・ 1回の授業あたり予習・復習・課題などを含めて、30～60分程度が望ましい。					

【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】

- ・『新しい保育講座⑦保育内容「健康」』河邊貴子・鈴木康弘・渡邊英則 編著 ミネルヴァ書房
ISBN: 9784623085330

【参考書・参考資料等】

- ・『子どもの健康と遊びの科学』安部孝 他 著 講談社 ISBN:9784065308677
- ・『保育内容「健康」遊びや生活から健やかな心と体を育む』 重安智子・安見克夫 編著
ミネルヴァ書房 ISBN: 9784623088119
- ・『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 ISBN:9784577814475
- ・『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 ISBN:9784577814482
- ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府 文部科学省 厚生労働省 フレーベル
館 ISBN:9784577813737

※その他、適宜資料を配布する

【授業科目名】 人間関係（指導法） <実務経験のある教員による授業科目>			【担当教員名】 吉田 しのぶ		
【授業形態】 演習	【必修・選択】 必須	【授業回数】 15回	【単位数】 2単位	【開講時期】 後期	【対象学年】 2年
【授業の概要】 幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について、幼児の姿と保育実践とを連携させ「人とか変わり合う力」を豊かにする保育、保育者の役割やその指導法への理解を深める。その上で、幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身に付ける。					
【授業の到達目標】 (1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解する。 1) 領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえ、自立心を育て人とか変わらせる力を養うために必要な、幼児が体験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。 2) 幼児園教育における評価の考え方を理解する。 3) 幼児期の集団生活を通して様々な人と関わる体験と、小学校以降の生活や教科等とのつながりについて理解する。 (2) 幼児期の発達や学びの経過を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。 1) 幼児の心情、認識、思考及び動き等を踏まえた教材研究や環境の重要性を理解し、保育構想することができる。 2) 領域「人間関係」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の効果的な活用法を理解し、保育構想に可溶することができる。 3) 具体的な発達課題に基づいた指導案を作成することができる。 4) 模擬保育やロールプレイの振り返りを通して、保育を改善するして視点を身に付ける。 5) 領域「人間関係」の特性に応じた現状の課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。					
【授業計画】 第 1回：幼稚園教育要領の領域「人間関係」の位置付けや全体構造をつかむ 第 2回：教師との信頼関係と園生活における安定感を形成する援助の在り方 第 3回：自立心を育む援助 第 4回：友達と遊びを楽しむ中で様々な体験をし、自他の気持ちに気付く援助の在り方 第 5回：自他の気持ちの違いに気付き、自分の気持ちを調整する力を育む援助の在り方 第 6回：決まりをめぐる様々な幼児期の葛藤やつまずきと援助 第 7回：ルールのある遊びと援助 第 8回：こと集団の育ちを考える 第 9回：協同的な遊びの中で、育ち合う長期的な保育の展開を考える 第10回：幼児にとって意味のある行事のねらいと活動内容を考える 第11回：異年齢・幼小連携の活動を考える 第12回：小学校以降の生活で生かされる人間関係の力を考える 第13回：地域の中の幼稚園の役割を考える 第14回：豊かに生きる子どもに育つために必要な体験を考える 第15回：領域「人間関係」をめぐる課題を考える 定期試験					

【評価の方法】

定期試験 50% 授業課題・発表 50%

【授業時間外の学修（準備・復習）】

準備：人間関係の事案

復習：授業振り返りシート

【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】

適宜、資料を配布する

【参考書・参考資料等】

幼稚園教育要領、幼稚園教育要領解説 保育所保育指針・保育所保育指針解説

幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

【授業科目名】 環境（指導法） <実務経験のある教員による授業科目>			【担当教員名】 平野 忠男		
【授業形態】 演習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 15回	【単位数】 2単位	【開講時期】 後期	【対象学年】 2年
【授業の概要】 幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「環境」について、乳幼児期の環境とのかかわりの実際とそれに伴う発達の諸側面の発達の特質をふまえ、保育における環境との豊かなかかわりを育むための保育内容の指導法を実践的に理解する。具体的にはテキスト、視聴覚教材（映像）を中心にして、以下の内容について演習形式で行う。					
【授業の到達目標】 <ul style="list-style-type: none">・ 幼児期の特性をふまえた幼稚園教育の内容的、方法的特質を理解する。・ 幼稚園教育要領の領域「環境」のねらいと内容を理解する。・ 乳幼児期の環境とのかかわりと、それに伴う諸側面の発達のあり方を理解する。・ 保育実践における領域「環境」の指導のあり方を理解する。					
【授業計画】 第 1回：科目の理解：授業の目的、環境を通して行う教育とは 第 2回：領域「環境」のねらい、内容、内容の取り扱い、領域「環境」の考え方 第 3回：子どもを取り巻く環境、身近な環境を考える。 第 4回：園環境について考える 第 5回：乳幼児期の環境とのかかわりの特徴—「養護が十分に行き届いた環境」を考える— 第 6回：人的環境を考える 第 7回：自然に親しみ、植物や生き物に触ること/季節により自然や生活に変化のあることに気付くこと 第 8回：さまざまな物や道具にかかわって遊ぶこと 第 9回：さまざまな物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心を持つこと 第 10回：日常生活の中で数量や図形などに関心を持つこと 第 11回：日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつこと 第 12回：保育内容「環境」の保育計画 第 13回：保育内容「環境」に関連する環境構成の工夫 第 14回：保育内容「環境」に関連する模擬指導案作成 第 15回：保育内容「環境」の現代的課題 定期試験					
【評価の方法】 <ul style="list-style-type: none">・ 授業に対する取り組み（課題・提出物・発表など）[40%]、小テスト[30%]、定期試験[30%]					
【授業時間外の学修（準備・復習）】 <ul style="list-style-type: none">・ 課題や小テストに向け各自復習を行うこと。・ 1回の授業あたり予習・復習・課題などを含めて、30～60分程度が望ましい。					
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 <ul style="list-style-type: none">・『保育・幼児教育シリーズ 環境の指導法 改訂第2版』若月芳浩 編著 玉川大学出版部 ISBN: 9784472405655					
【参考書・参考資料等】 <ul style="list-style-type: none">・『学びを支える保育環境づくり～幼稚園・保育園・認定こども園の環境構成～』高山静子著 小学館 ISBN:9784098401826					

【授業科目名】 言葉（指導法） <実務経験のある教員による授業科目>			【担当教員名】 藤田 千波		
【授業形態】 演習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 15回	【単位数】 2単位	【開講時期】 前期	【対象学年】 2年
【授業の概要】 <ul style="list-style-type: none"> 「言葉」の領域のねらいや内容について理解を深め、保育者として適切な言葉の指導や援助の方法を学ぶ。 保育者の言葉かけや援助を、映像資料や事例等から、子どもの具体的な姿とともに理解する。 乳幼児がどのように言葉を獲得していくのかを知り、言葉の発生と発達の過程を年齢別に学ぶ。 					
【授業の到達目標】 <p>(1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「言葉」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身につけていく内容と指導上の留意点を理解している。 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 領域「言葉」に関わる幼児が経験し身につけていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。 <p>(2) 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> 幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。 領域「言葉」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し保育の構想に活用することができる。 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につけている。 領域「言葉」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。 					
【授業計画】 <p>第 1回：保育における「言葉」とは：言葉をめぐるワークショップ</p> <p>第 2回：領域「言葉」と保育内容：保育内容を示す領域「言葉」のねらいや内容の考え方について</p> <p>第 3回：領域「言葉」と保育内容：乳幼児の言葉の発達と条件</p> <p>第 4回：乳児保育における言葉を育む保育実践</p> <p>第 5回：1歳以上3歳未満児の保育における言葉を育む保育実践</p> <p>第 6回：乳児とのやり取りを豊かにする遊び</p> <p>第 7回：3歳以上児の保育における言葉のやり取りを育む保育実践</p> <p>第 8回：言葉の感覚やイメージを育む保育実践</p> <p>第 9回：子どもの言葉を育む保育の実際：指導案の作成（ICTを活用して指導案作り）</p> <p>第10回：子どもの言葉を育む保育の実際：模擬保育（ICTを活用して写真撮影等）</p> <p>第11回：子どもの言葉を育む保育の実際：模擬保育（ICTを活用して写真撮影等）</p> <p>第12回：子どもの言葉を育む保育の実際：模擬保育の振り返り</p> <p>第13回：配慮を必要とする子どもの言葉：言葉の発達が気になる子どもの保育</p> <p>第14回：領域「言葉」と小学校教育との連携：学びの芽生えとスタートカリキュラム</p> <p>第15回：まとめ：子どもの言葉を育てる指導 定期試験</p>					

【評価の方法】

定期試験 50%、授業課題(提出)・発表 50%

【授業時間外の学修（準備・復習）】

事前にテキストを読んで準備し、前回までの学習内容を確認しておく。
毎回の授業内容を復習し、十分に理解できなかった内容（専門用語など）について自分で調べたり、担当教員に質問したりして理解を深める。

【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】

子どもの姿からはじまる領域・言葉

秋田喜代美・三宅茂夫 出版社 (株)みらい ISBN番号 9784860155261

【参考書・参考資料等】

幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

【授業科目名】 表現（指導法） <実務経験のある教員による授業科目>			【担当教員名】 榎本 優人・平野 忠男・藤本 元美																	
【授業形態】 演習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 15回	【単位数】 2単位	【開講時期】 後期	【対象学年】 2年															
【授業の概要】 領域「表現」指導に関する、子どもの表現の姿やその発達及びそれを促す要因、子どもの感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境構成など、専門的事項についての知識・技能、表現力を身に付ける授業科目である。他の領域との相互的なかかわりを踏まえ、乳幼児期に総合的に育成していくための基盤となる表現について、幼稚園教育要領、保育所保育指針等のねらいや内容、指導上の留意点を中心に解説する。また、上記の点を踏まえた上で保育現場の実践的な表現活動を取り上げ、造形表現、音楽表現、身体表現を実際に経験する。その中で領域に対する評価の考え方や、表現活動と小学校の教科へつながりもついても解説する。																				
【授業の到達目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・保育・幼児教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解している。 ・乳幼児の発達に即した保育内容の展開や指導法を理解する。 ・指導案を作成し、その指導案を基に模擬保育を行い、その振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 ・様々な表現の基礎的知識技能を生かし、子どもの表現活動に展開させることができる。 ・子どもの遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて説明できる。 																				
【授業計画】 <table border="0"> <tr><td>第 1回 : オリエンテーション 表現とは</td></tr> <tr><td>第 2回 : 劇遊び① (グループ分け・演目・シナリオ作り)</td></tr> <tr><td>第 3回 : 劇遊び② (お面・冠づくり)</td></tr> <tr><td>第 4回 : 劇遊び③ (小道具づくり)</td></tr> <tr><td>第 5回 : 劇遊び④ (練習)</td></tr> <tr><td>第 6回 : 劇遊び⑤ (発表会)</td></tr> <tr><td>第 7回 : 音楽表現活動①</td></tr> <tr><td>第 8回 : 音楽表現活動②</td></tr> <tr><td>第 9回 : 音楽表現活動を取り入れた模擬保育の展開について</td></tr> <tr><td>第 10回 : 模擬保育発表に向けた準備</td></tr> <tr><td>第 11回 : 模擬保育発表</td></tr> <tr><td>第 12回 : 『幼稚園教育要領』・『保育所保育指針』にみる領域「表現」</td></tr> <tr><td>第 13回 : 簡単な身体表現①</td></tr> <tr><td>第 14回 : 簡単な身体表現②</td></tr> <tr><td>第 15回 :まとめ 子どもの豊かな表現を引き出す保育者になるために 定期試験</td></tr> </table>						第 1回 : オリエンテーション 表現とは	第 2回 : 劇遊び① (グループ分け・演目・シナリオ作り)	第 3回 : 劇遊び② (お面・冠づくり)	第 4回 : 劇遊び③ (小道具づくり)	第 5回 : 劇遊び④ (練習)	第 6回 : 劇遊び⑤ (発表会)	第 7回 : 音楽表現活動①	第 8回 : 音楽表現活動②	第 9回 : 音楽表現活動を取り入れた模擬保育の展開について	第 10回 : 模擬保育発表に向けた準備	第 11回 : 模擬保育発表	第 12回 : 『幼稚園教育要領』・『保育所保育指針』にみる領域「表現」	第 13回 : 簡単な身体表現①	第 14回 : 簡単な身体表現②	第 15回 :まとめ 子どもの豊かな表現を引き出す保育者になるために 定期試験
第 1回 : オリエンテーション 表現とは																				
第 2回 : 劇遊び① (グループ分け・演目・シナリオ作り)																				
第 3回 : 劇遊び② (お面・冠づくり)																				
第 4回 : 劇遊び③ (小道具づくり)																				
第 5回 : 劇遊び④ (練習)																				
第 6回 : 劇遊び⑤ (発表会)																				
第 7回 : 音楽表現活動①																				
第 8回 : 音楽表現活動②																				
第 9回 : 音楽表現活動を取り入れた模擬保育の展開について																				
第 10回 : 模擬保育発表に向けた準備																				
第 11回 : 模擬保育発表																				
第 12回 : 『幼稚園教育要領』・『保育所保育指針』にみる領域「表現」																				
第 13回 : 簡単な身体表現①																				
第 14回 : 簡単な身体表現②																				
第 15回 :まとめ 子どもの豊かな表現を引き出す保育者になるために 定期試験																				
【評価の方法】 <p>榎本担当分 (7-11回) [40%] 平野担当分 (1回, 12-15回) [30%] 藤本担当分 (2 - 6回) [30%]</p> <p>※評価の観点…詳しくは授業内で伝達する</p>																				
【授業時間外の学修（準備・復習）】 <ul style="list-style-type: none"> ・1回の授業あたり予習・復習・課題などを含めて、60分程度が望ましい。 																				

【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】

- ・適宜配布する

【参考書・参考資料等】

- ・『保育者養成のための音楽表現』編著 竹内貞一 大学図書出版 ISBN:9784909655370
- ・『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 ISBN:9784577814475
- ・『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 ISBN:9784577814482
- ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府 文部科学省 厚生労働省 フレーベル館 ISBN:9784577813737

【授業科目名】 保育内容総論 <実務経験のある教員による授業科目>			【担当教員名】 藤井 和子		
【授業形態】 演習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 15回	【単位数】 1単位	【開講時期】 前期	【対象学年】 2年 (長期履修者対象外)
【授業の概要】 養護と教育が一体となって展開される保育の基本について学び、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を踏まえて、具体的な保育のねらいと内容を考えるための基礎的な力を養う。					
【授業の到達目標】 1. 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育内容」の関連を理解できる。 2. 保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解できる。 3. 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史的変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の課程（計画・実践・記録・省察・改善）につなげて理解できる。 4. 保育の多様な展開について具体的に理解できる。					
【授業計画】 第 1回：保育所保育指針に基づく保育の全体構造と保育内容を理解する。 第 2回：子どもの発達や生活に即した保育の内容の基本的考え方を理解する。 第 3回：養護及び教育が一体的に展開する保育について理解し、環境構成を考える。 第 4回：個と集団の発達を踏まえた保育を展開するための指導案を作成する。 第 5回：模擬保育を行い、個と集団の発達を踏まえた保育について実践的に学ぶ。 第 6回：模擬保育を行い、個と集団の発達を踏まえた保育について実践的に学ぶ。 第 7回：模擬保育を行い、個と集団の発達を踏まえた保育について実践的に学ぶ。 第 8回：模擬保育を振り返り、グループ内で自己評価を行い改善点について話し合う。 第 9回：子どもの主体性を尊重する保育の展開を考える。 第10回：生活を踏まえた保育の展開について考える。 第11回：保育内容の歴史的変遷と社会的背景を学ぶ。 第12回：家庭や地域、小学校との連携を踏まえた保育について考える。 第13回：長時間保育のあり方と保育内容について学ぶ。 第14回：特別な支援を必要とする子どもの保育内容について考える。 第15回：多文化共生としての保育内容について学ぶ。 定期試験					
【評価の方法】 定期試験 50% 課題提出 20% 模擬保育発表 30%					
【授業時間外の学修（準備・復習）】 準備：授業前にシラバスを見て授業内容を確認し必要なものを準備する。 復習：授業の学びをノートに記入する。					
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 適宜資料を配布する。					
【参考書・参考資料等】 保育所保育指針解説 認定こども園教育・保育要領解説 幼稚園教育要領解説					

【授業科目名】 乳児保育Ⅱ <実務経験のある教員による授業科目>			【担当教員名】 下里 里枝		
【授業形態】 演習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 15回	【単位数】 1単位	【開講時期】 後期	【対象学年】 2年
【授業の概要】 本科目では、乳児保育Ⅰの学びを踏まえ、乳児期の保育に必要な基本的なスキルや知識を習得し、乳児の健やかな成長と発達を支援する保育者としての役割を果たす能力を身につけることを目的とする。					
【授業の到達目標】 1. 3歳未満児の発達・発育の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 3. 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。 4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。 ※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。					
【授業計画】 第 1回：オリエンテーション、乳児保育Ⅰの復習 第 2回：乳児保育の意義、乳児保育の役割と機能、乳児保育の現状 第 3回：0歳児保育の実際、アタッチメントについて 第 4回：1歳児保育の実際 第 5回：2歳児保育の実際 第 6回：2歳児保育から3歳児保育への移行期の保育内容 第 7回：乳児保育の遊びの指導・援助① 第 8回：乳児保育の遊びの指導・援助② 第 9回：乳児保育の健康・安全・事故予防について 第10回：3歳未満児の指導計画の立て方 第11回：子どもの発達を促すおもちゃ、乳児にふさわしい絵本について 第12回：乳児保育を支える連携・協働について 第13回：事例の演習① 第14回：事例の演習② 第15回：乳児保育Ⅱのまとめ 定期試験					
【評価の方法】 課題レポート10点、ワークシート30点、グループ発表とワークシート10点、総括試験50点					
【授業時間外の学修（準備・復習）】 毎回の復習と、ウェブクラスに次回の授業資料は掲載しているので必ず予習すること。 提出物は期日を守ること。期日を過ぎたら受け取りません					
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 保育所保育指針					
【参考書・参考資料等】 授業で適宜配布する					

【授業科目名】 子どもの健康と安全 <実務経験のある教員による授業科目>			【担当教員名】 岩崎 巧		
【授業形態】 演習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 1 5回	【単位数】 1 単位	【開講時期】 前期	【対象学年】 2年 (長期履修者対象外)
【授業の概要】 子どもの命を守り、健やかな育ちを支援する保育実践に必要な基礎的知識・技術を修得することを目的として、保健的観点に基づく保育の環境整備、保育における保健的対応、健康・安全の管理の実施体制等について講義・演習で授業を展開する。					
【授業の到達目標】 1. 保健的観点を踏まえた保育環境及び援助について述べることができる。 2. 保育における健康及び安全の管理について述べることができる。 3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について述べることができる。 4. 感染症対策について述べることができる。 5. 健康及び安全の管理の実施体制について述べることができる。					
【授業計画】 第 1回 : 子どもの健康と保育環境 第 2回 : 子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康と安全の管理 第 3回 : 保育における衛生管理 第 4回 : 保育中の事故防止と安全管理 第 5回 : 災害への備えと危機管理 第 6回 : 体調不良や傷害が発生した場合の対応 (子どもの主な症状への対応) ① 第 7回 : 体調不良や傷害が発生した場合の対応 (子どもの主な症状への対応) ② 第 8回 : 応急手当 第 9回 : 一次救命処置 第10回 : 子どもと薬 第11回 : 感染症の集団発生の予防、発生時の対応 第12回 : 保育における保健的対応 第13回 : 3歳未満児の子どもの日常生活の援助 第14回 : 個別的な配慮を必要とする子どもへの対応 (慢性疾患、アレルギー疾患等への対応) 第15回 : 職員間の連携・協働と組織的取組・まとめ 定期試験 なし					
【評価の方法】 授業内課題 (ワークシート) (50%) 課題発表 (30%) 最終課題 (20%) で評価					
【授業時間外の学修（準備・復習）】 各授業前に、穴あき形式の問題を出題。前回資料を基に、復讐しておくよう意識づける。					
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 『これだけはおさえたい！保育者のための「子どもの健康と安全」』 [改訂二版] 鈴木美枝子 [編著] /創成社 ISBN : 9784794481092					
【参考書・参考資料等】 特になし					

【授業科目名】 社会的養護Ⅱ <実務経験のある教員による授業科目>			【担当教員名】 山下 知一		
【授業形態】 演習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 15回	【単位数】 1単位	【開講時期】 前期	【対象学年】 2年 (長期履修者対象外)
【授業の概要】 社会的養護Ⅰで学んだ基本内容を確認しながら、社会的養護の変遷と現状、今後の方向性について学ぶ。 また、社会的養護を利用する子ども自身と環境面双方から課題を見出し、自立支援や永続的解決に繋がる支援について演習を通じて考え方を深めていく。					
【授業の到達目標】 子どもの最善の利益を念頭に置きながら、家庭への支援から子どもの代替養育支援も含んだ視野の広がりが持てる様になる。 演習を通じて、子どもを取り巻く課題に対してソーシャルワークの視点や価値、技術を持ちながら支援について考える事が出来る様になる。					
【授業計画】 第 1回：オリエンテーション 社会的養護の理解のために① 第 2回：社会的養護の理解のために②「親子を救うための施設-こうのとりのゆりかご-」（演習） 第 3回：アドミッションケア 施設入所・里親委託に伴う支援① 第 4回：アドミッションケア 施設入所・里親委託に伴う支援②（演習） 第 5回：インケア 日常生活支援・治療的支援① 第 6回：インケア 日常生活支援・治療的支援②（演習） 第 7回：インケア 日常生活支援・治療的支援③（演習） 第 8回：リービングケア 自立支援① 第 9回：リービングケア 自立支援②（演習） 第10回：アフターケアについて① 第11回：アフターケアについて②（演習） 第12回：ソーシャルワーク① 第13回：ソーシャルワーク② 第14回：ソーシャルワーク③（演習） 第15回：記録と評価について 定期試験					
【評価の方法】 「授業後の振り返りシート」（50%）と「定期試験（レポート）」（50%）の総合評価。					
【授業時間外の学修（準備・復習）】 社会的養護の授業内容に関連する資料や文献を調べて、読んでおく。					
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 テキストは指定せず、授業に必要な資料を適宜配布します。					
【参考書・参考資料等】 杉山宗尚・原田旬哉(2023).『図解で学ぶ保育 社会的養護Ⅱ』.萌文書林 吉田眞理(2023).『児童の福祉を支える<演習>社会的養護Ⅱ』. 萌文書林					

【授業科目名】 子育て支援 <実務経験のある教員による授業科目>			【担当教員名】 阪本 満		
【授業形態】 演習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 15回	【単位数】 1単位	【開講時期】 前期	【対象学年】 2年 (長期履修者対象外)
【授業の概要】 保育所保育指針に規定されている子育て支援の意義や、保育士の役割と相談支援の基本を学ぶ。また、保育ソーシャルワークの観点から他機関との連携についての知識を深める。さらに、保育所や他の児童福祉施設の様々な相談事例から支援の実際と方法について学ぶ。実践力を深めるためにグループ討論やロールプレイ等の手法を活用した演習も行う。					
【授業の到達目標】 ①子育て支援の意義と原則について理解とともに、保護者との信頼関係を築くための基本的な姿勢や援助方法について理解する。 ②保育相談事例や演習問題を通して、保護者支援の進め方について実践力を身に付ける。					
【授業計画】 第 1回：オリエンテーション それって子育て支援? 第 2回：制度としての子育て支援① 保育所の特性を生かした支援 第 3回：制度としての子育て支援② 不適切な養育・機関との連携 第 4回：制度としての子育て支援③ 地域に開かれた子育て支援 第 5回：家庭を取り巻く事象や子育て家庭への理解について① グループワーク 第 6回：家庭を取り巻く事象や子育て家庭への理解について② グループワーク 第 7回：子育て支援の実際 第 8回：子育て支援の基礎知識・援助技術① 自己開示と傾聴 第 9回：子育て支援の基礎知識・援助技術② リフレーミング 第10回：子育て支援の基礎知識・援助技術③ 自己受容と自己覚知・他者理解 第11回：子育て支援の基礎知識・援助技術④ ペアレントトレーニング・文字による伝え方等 第12回：子育て支援の基礎知識・援助技術⑤ DVD視聴によるワーク 第13回：子育て支援の基礎知識・援助技術⑥ 保育ソーシャルワークの展開過程 第14回：子育て支援の基礎知識・援助技術⑦ 障害受容等 第15回：まとめ 子育て支援とは 定期試験					
【評価の方法】 定期試験 60%， 授業ワークシート等の提出物 40%					
【授業時間外の学修（準備・復習）】 発表の資料作成・課題提出					
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 保護者支援 保育ソーシャルワークで学ぶ相談支援 永野典詞・岸本元気 風鳴舎 ISBN 9784907537005					
【参考書・参考資料等】 保育所保育指針解説等 その他の必要資料は授業内配布					

【授業科目名】 特別支援教育・保育概論B			【担当教員名】 清水 智子		
【授業形態】 演習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 15回	【単位数】 1単位	【開講時期】 後期	【対象学年】 2年 (長期履修者対象外)
【授業の概要】 「特別支援教育・保育概論A」の学びを踏まえ、特別の支援を必要とする子どもの特性と支援方法について理解を深める。さらに、子どもの状態をアセスメントして具体的な支援方法を工夫したり、園内の支援体制・保護者や専門機関との連携について考えたりすることができるよう、事例を用いたグループワークに取り組む。					
【授業の到達目標】 (1) 特別の支援を必要とする子どもの障害の特性および発達を理解する。 (2) 特別の支援を必要とする子どもに対する教育課程や支援の方法を理解する。 (3) 障害はないが特別の教育的ニーズのある子どもの活動上又は生活上の困難とその対応を理解する。					
【授業計画】 第 1回 : 特別支援教育・障害児保育とは 第 2回 : 特別支援教育・障害児保育の基本 第 3回 : 知的障害の特性と支援 第 4回 : 肢体不自由の特性と支援 第 5回 : 視覚障害の特性と支援 第 6回 : 聴覚障害の特性と支援 第 7回 : 言語障害の特性と支援 第 8回 : 発達障害の特性と支援 ①自閉症スペクトラム障害 第 9回 : 発達障害の特性と支援 ②注意欠如多動性障害 第 10回 : 発達障害の特性と支援 ③学習障害 第 11回 : 発達障害の特性と支援 ④発達性協調運動障害 第 12回 : 事例を用いたグループワーク①話し合い、ポスター作成 第 13回 : 事例を用いたグループワーク②発表 第 14回 : その他の特別の支援を必要とする子どもの理解と支援 第 15回 : まとめと振り返り 定期試験					
【評価の方法】 授業の課題提出 50% 、定期試験 50%					
【授業時間外の学修（準備・復習）】 事前に1年次に学修したことを振り返る 復習のために授業で理解した障害の特性と支援についてまとめる					
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 適宜、資料を配布する					
【参考書・参考資料等】 実践に生かす障害児保育・特別支援教育（第2版）2024 前田泰弘編著 萌文書林 9784893474216 実践にいかす特別支援教育・障がい児保育の理論と支援 2020 小川圭子・矢野正編著 嵯峨野書院 9784782306000					

【授業科目名】 保育・教育課程論 <実務経験のある教員による授業科目>			【担当教員名】 吉田 しのぶ		
【授業形態】 講義	【必修・選択】 必須	【授業回数】 15回	【単位数】 2単位	【開講時期】 前期	【対象学年】 2年
【授業の概要】 幼児教育は、幼児の発達にふさわしい保育・教育計画に基づき実践しなければならない。そのために、毎年カリキュラムを見直し、一人一人の幼児の姿から育ちの方向性、ねらいをもった保育を計画し、実践し、振り返りを行い改善することが大切である。現場の姿をイメージしながら教育課程・保育の全体的な計画について学ぶ。幼稚園・保育所・認定こども園における保育を具体的に捉え、保育者がどのように計画・実践・記録・考察・評価・改善をしているかを理解する。					
【授業の到達目標】 1 学校教育において教育課程が果たしている役割や機能を理解する。 2 教育課程編成の基本原理を理解し、教育実践に即した教育課程編成の手順や方法を理解する。 3 教科・領域・学年を横断して教育内容を選択・配列された教育課程や考え方を理解する。 4 保育の計画および評価について役割・昨日・意義を理解する。 5 保育の全体的な計画と指導計画の作成についてその意義や方法を理解する。 6 子どもの理解に基づく保育・教育の過程について基本的な考え方を理解し、全体的な行動を捉え、カリキュラム・マネジメントについて理解する。					
【授業計画】 第 1回：オリエンテーション/保育・教育課程論で学ぶこと 第 2回：保育の基本について、保育で重視していることを理解する 第 3回：教育課程・全体的な計画と指導計画の役割・機能・意義を理解する（1） 第 4回：教育課程・全体的な計画と指導計画の役割・機能・意義を理解する（2） 第 5回：幼稚園における教育課程を理解する 第 6回：保育所における全体的な計画を理解する 第 7回：指導計画の作成の基本とその方法について（幼稚園・保育所） 第 8回：乳児、1・2歳児の特徴と指導計画と留意点（1） 第 9回：乳児、1・2歳児の特性と指導計画と留意点（2） 第10回：3歳児の特性と指導計画 第11回：4歳児の特性と指導計画 第12回：5歳児の特性と指導計画 第13回：保育の実際と評価の考え方（PTCAサイクル） 第14回：就学前教育（幼保こ）と小学校連携 第15回：まとめと振り返り 定期試験					
【評価の方法】 定期試験（50%） 提出課題・ワークプリント（50%）					
【授業時間外の学修（準備・復習）】 ・教育課程・全体的な計画を調べる ・復習課題として、テキストの課題に取り組む ・実習先の教育計画・全体的な計画を調べる ・自分の保育観にあった教育計画・全体的な計画を調べる					

【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】

「教育課程・保育の計画と評価」 岩崎淳子他 萌文書林 9784893473141

【参考書・参考資料等】

幼稚園教育要領、幼稚園教育要領解説 保育所保育指針、保育所保育指針解説

幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

【授業科目名】 子どもの造形B <実務経験のある教員による授業科目>			【担当教員名】 藤本 元美		
【授業形態】 演習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 15回	【単位数】 1単位	【開講時期】 後期	【対象学年】 2年
【授業の概要】 造形の専門的な知識と技能を学び、実践力のある保育者になるための資質を向上させる。					
【授業の到達目標】 豊かな感性や表現力を育む活動を実習し、保育者として必要な知識と技能を習得する。					
【授業計画】 第 1回：オリエンテーション、学院祭の門づくり 第 2回：学院祭の門づくり 第 3回：壁面を飾る、四季を飾る 第 4回：壁面を飾る、季節感を生かして作る 第 5回：壁面を飾る、生活環境の特色を生かして作る 第 6回：お弁当を作る①、素材を選び活用する 第 7回：お弁当を作る②、美的な配置を工夫する 第 8回：ステンシル、ローラー遊びをする 第 9回：クリスマスカードを作る① 第10回：クリスマスカードを作る② 第11回：文字の構成をする 第12回：紙版画、版づくりをする 第13回：紙版画、刷りを行う 第14回：絵手紙を描く① 第15回：絵手紙を描く② 定期試験					
【評価の方法】 表現した作品を評価する。					
【授業時間外の学修（準備・復習）】 次回の授業のための材料を集め関係資料を準備する。					
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 必要に応じて資料を配布する。					
【参考書・参考資料等】					

【授業科目名】 ピアノ基礎Ⅱ <実務経験のある教員による授業科目>			【担当教員名】 榎本 優人・有居 恵 遠藤 優美・數井 紗知		
【授業形態】 演習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 15回	【単位数】 1単位	【開講時期】 前期	【対象学年】 2年
【授業の概要】 ピアノ基礎Ⅰで身に付けたものに加えて、保育現場で必須とされている「生活のうた」「子どものうた（童謡を中心とする）」をさらに追及した上で、現場で即戦力となりうる演奏能力を身に付けることができるようとする。 ピアノ基礎Ⅰと同様に、個人レッスン体制を継続することで、各々のレベルに応じた指導を展開し、効率的かつ効果的な授業展開を行う。					
【授業の到達目標】 音楽に関心を持ち、その基礎知識や技術をさらに深め、子どもの音楽活動を展開できるピアノ及び歌唱の演奏技術習得を目指す。					
【授業計画】 第 1回：オリエンテーション 受講の心得 課題配布 個人レッスン担当講師発表 第 2回：「おつかいりさん」 付点のリズムを活かした曲を学ぶ 第 3回：「ふしげなポケット」 曲中の速度の変化による表現の違いを学ぶ 第 4回：「バスごっこ」 振付等で動きを持たせながら、歌詞のイメージと連動した表現方法を学ぶ 第 5回：「アイアイ」 掛け合いになる歌を学ぶ 第 6回：「にじ」 曲の情景を思い浮かべ、曲想を活かした演奏方法を学ぶ 第 7回：これまでの進捗状況の確認(復習含め) 第 8回：ピアノ曲①「ブルグミュラーNo.1 すなおなこころ」 コードと分三和音による展開曲を学ぶ 第 9回：ピアノ曲②「ブルグミュラーNo.1 すなおなこころ」 コードと分三和音による展開曲を学ぶ 第 10回：ピアノ曲③「ブルグミュラーNo.1 すなおなこころ」 コードと分三和音による展開曲を学ぶ 第 11回：「とんでったバナナ」 歌詞のオノマトペの特性を活かした演奏方法を学ぶ 第 12回：教育実習Ⅰ-②に向けた課題対策 第 13回：前期末まとめに向けて到達度の確認① 第 14回：前期末まとめに向けて到達度の確認② 実技発表への最終準備 第 15回 前期末まとめ 実技発表					
【評価の方法】 実技発表60% 平常実技到達度40%					
【授業時間外の学修（準備・復習）】 授業前後60分程度が望ましい					
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 保育者になるためのピアノ教本（エイデル研究所） ブルグミュラー25番の練習曲（全音楽譜出版社）					
【参考書・参考資料等】 必要に応じて適宜プリントを追加配布する					

【授業科目名】 ピアノ応用 <実務経験のある教員による授業科目>			【担当教員名】 榎本 優人・遠藤 優美 数井 紗知・福田真梨奈		
【授業形態】 演習	【必修・選択】 選択	【授業回数】 15回	【単位数】 1単位	【開講時期】 後期	【対象学年】 2年 (長期履修者対象外)
【授業の概要】 ピアノ基礎Ⅰ・ピアノ基礎Ⅱで身に付けたものに加えて、保育・教育現場で必要とされている、童謡を中心とした「子どものうた」をさらに追及した上で、現場で即戦力となりうる演奏能力を身に付けることができるようとする。 これまでのピアノ基礎Ⅰ・ピアノ基礎Ⅱと同様に、個人レッスン体制を継続することで、各々のレベルに応じた指導を展開し、効率的かつ効果的な授業展開を行う。					
【授業の到達目標】 これまでに培ってきた音楽知識や技術をさらに深め、子どもたちと音楽表現活動を展開していくためのピアノ技能習得及び歌唱の演奏技術習得を目指す。					
【授業計画】 第 1回：オリエンテーション 授業展開について 課題配布 個人レッスン担当講師発表 第 2回：「きのこ」季節の歌、音の強弱の変化を活かした演奏方法を学ぶ① 第 3回：「きのこ」季節の歌、音の強弱の変化を活かした演奏方法を学ぶ② 第 4回：「あわてんぼうのサンタクロース」歌詞のオノマトペの特性を活かした演奏方法を学ぶ① 第 5回：「あわてんぼうのサンタクロース」歌詞のオノマトペの特性を活かした演奏方法を学ぶ② 第 6回：「アラベスク」強弱・アーティキュレーション・転調等による曲想の変化を捉える① 第 7回：「アラベスク」強弱・アーティキュレーション・転調等による曲想の変化を捉える② 第 8回：「うれしいひなまつり」行事にまつわる季節の歌の演奏を学ぶ① 第 9回：「うれしいひなまつり」行事にまつわる季節の歌の演奏を学ぶ② 第10回：「せかいいじゅうのこどもたちが」アウフタクトの曲調を学ぶ① 第11回：「せかいいじゅうのこどもたちが」アウフタクトの曲調を学ぶ② 第12回：「1年生になったら」子どもたちが1年生になることへの期待感を表現した曲を学ぶ① 第13回：「1年生になったら」子どもたちが1年生になることへの期待感を表現した曲を学ぶ② 第14回：後期末まとめに向けて到達度の確認 実技発表への最終準備 第15回 後期末まとめ 実技発表					
【評価の方法】 実技発表60% 平常実技到達度40%					
【授業時間外の学修（準備・復習）】 授業前後60分程度が望ましい					
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 保育者になるためのピアノ教本（エイデル研究所） ブルグミュラー25番の練習曲（全音楽譜出版社）					
【参考書・参考資料等】 必要に応じて適宜プリントを追加配布する					

【授業科目名】 子どもの運動遊び			【担当教員名】 齋藤 光		
【授業形態】 演習	【必修・選択】 選択	【授業回数】 15回	【単位数】 1単位	【開講時期】 後期	【対象学年】 2年 (長期履修者対象外)
【授業の概要】 子どもの遊びを自らが実践し、子どもが遊びを通して心身ともに健康であるために保育者として必要な役割、運動に苦手意識を持たずに楽しめる保育者の役割、安全な環境づくりを整備する役割を理解する。加えて、子どもの興味・関心、年齢や発達の特性を踏まえつつ、多様な動きを経験できるような具体的な方法を考える。					
【授業の到達目標】 様々な運動遊びについて体験する活動の中で、運動遊びの持つ魅力に気づき、子どもたちにその魅力を伝えられるようになることを目標とする。加えて、運動遊びを通して子どもたちにどのような資質・能力が身につくのかを正しく理解するとともに、子どもの健全な発達に貢献していく力を身につける。					
【授業計画】 第 1回 : オリエンテーション 第 2回 : 子どもの体操 (パラバルーン) 第 3回 : ボールを使った遊び 第 4回 : 繩・フープを使った遊び 第 5回 : 季節に応じた運動遊び・外遊び (近隣の公園にて実施予定) 第 6回 : 新聞、牛乳パック、タオルなど身近なものを使った遊び 第 7回 : マット、跳び箱などを使った遊び 第 8回 : 集団遊び 第 9回 : 運動会種目 第10回 : 伝承遊び 第11回 : サーキット遊び (グループワーク) 第12回 : 遊びづくり (グループワーク) 第13回 : グループで考えた遊びの発表① (模擬保育) 第14回 : グループで考えた遊びの発表② (模擬保育) 第15回 : グループで考えた遊びの発表③ (模擬保育) 、講義のふりかえり 定期試験は実施しない					
【評価の方法】 1 授業実施回ごとの「学び」のや「気づき」に関するポートフォリオ (50%) 2 授業での学びを活かした遊びづくり・模擬保育での発表 (50%)					
【授業時間外の学修 (準備・復習)】 ・関連科目 (体育理論、体育実技、子どもと健康など) での学びを整理し、第2回～第11回の遊びにはどのようなものがあるか調べておくことを予習として期待します。また、12回目以降の遊びづくりや模擬保育では、各遊びに応じた準備が求められます。 ・実施した運動遊びに関わる復習として、子どもの実態に応じてルールや用具などを変えていく必要性について考えることを復習とします。					
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 ・適宜資料を配布する					

【参考書・参考資料等】

- ・学校体育研究同志会編（2021）『幼児期 運動あそびの進め方』、創文企画
- ・仙田満（1992）『子どもとあそび—環境建築家の眼—』、岩波書店
- ・幼児期運動指針策定委員会（2012）「幼児期運動指針」
〈https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/undousisin/1319771.htm〉

【授業科目名】 保育・教職実践演習 <実務経験のある教員による授業科目>			【担当教員名】 藤田 千波・吉田 しのぶ		
【授業形態】 演習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 15回	【単位数】 2単位	【開講時期】 後期	【対象学年】 2年 (長期履修者対象外)
【授業の概要】 履修カルテや実習記録等をもとに授業や実習を振り返り、保育者として必要な知識・技能等の習得について確認する。クラスを模した集団を作り、模擬保育に基づくロールプレイをグループで行い、新人保育者に求められる実践的力量を高める。					
【授業の到達目標】 1. 保育者としての職務について、その意義や役割、職務内容を再確認し、下記の事項について総合的、横断的に学ぶとともに、新人保育者としての実践的力量を身につける。 (1) 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項 (2) 社会性や対人関係能力に関する事項 (3) 子ども理解やクラス運営等に関する事項 (4) 保育内容等の指導力に関する事項 2. これまでの授業や実習での学びを振り返り、学修の成果と課題を明確にする。 3. 模擬保育やロールプレイを通して、保育者として求められる幅広い教養と幼児理解や保育実践、クラス運営などに関する専門的知識や技術を身につける。 4. 積極的に情報を収集し、グループワークや討論を行うことを通して、社会性や対人関係能力を身につける。					
【授業計画】 第 1回 : オリエンテーション 授業のねらい、内容について理解する。 実習や履修カルテの振り返りを通して、自己の課題を明確にする。 第 2回 : 自己課題に対する対応について考える。 第 3回 : 保育者の役割や職務内容、子どもに対する責任について、自分の考えを深める。 第 4回 : 模擬幼稚園を作り、園紹介・年間行事予定を考える。 第 5回 : 園行事の企画・立案の基本を学ぶ。 第 6回 : 園行事のお知らせを作成する。 第 7回 : 模擬保育について、事前計画を立てる。 第 8回 : 模擬保育の指導案を作成する。 第 9回 : グループで指導案の内容を見直し、子ども理解に基づく指導案を作成する。 第 10回 : 模擬保育の準備をする。 第 11回 : 第 12回 : } 模擬保育 模擬保育を通して、基本的な保育技術と改善点を学ぶ。 第 13回 : 第 14回 : 2年間の学びを整理し、保育者に必要な資質能力について、自分の考えをまとめること。 第 15回 : 授業内の成果を、パワーポイントを使って発表すること。 定期試験 【評価の方法】 レポート課題(定期試験) 30%、 模擬保育・課題提出 70%					
【授業時間外の学修（準備・復習）】 履修カルテをもとに、既習の事項を振り返り、不足している知識や技能を確認しておくこと。 授業内で課される課題にしっかりと取り組むこと。					

グループ討議の内容をふまえて、教材解釈・教材研究・子ども理解の大切さやそのポイントを整理する。

【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】

【参考書・参考資料等】

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

【授業科目名】 教育実習Ⅰ（集中実習） <実務経験のある教員による授業科目>			【担当教員名】 専任教員		
【授業形態】 実習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 10日間	【単位数】 2単位	【開講時期】 前期	【対象学年】 2年（長期履修者対象外）
【授業の概要】 幼稚園（認定こども園）での実習 一年次での実習を踏まえ、実習内容をより深められるように取り組んでいく。 指導実習（責任実習）として保育者の指導を受けながら、指導計画を立案し、保育の一部を保育者に代わって担当する。子どもの実態を理解し、保育活動の選択、環境構成、保育の展開、保育者の援助について学ぶ。					
【授業の到達目標】 1. 幼稚園教育要領及び幼児の実態を踏まえた適切な指導案を作成し、指導計画を立案し、保育を実践することができる。 2. 保育に必要な基礎的技術（話法・保育形態・保育展開・環境構成など）を実地に即して身に付けるとともに、幼児の体験との関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用することができる。 3. 学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解できている。 4. 様々な場面で適切に幼児と関わることができる。					
【授業計画】 (1) 実習の目標 ①幼稚園の役割について具体的に理解する。 ②実際の保育を通して、保育技術を修得する。 ③幼児の発達を踏まえて、個人差に応じた援助の方法を学ぶ。 ④指導計画（指導案）を立て、実際に保育を実践する。 ⑤考察したこと、子どもとの関わりの中で考えたこと、理解したことを記録する。 ⑥保育実践やその後の考察の中で、自己課題を明確にする。 ⑦幼稚園教諭としての仕事（保育以外）を具体的に学ぶ。 ⑧職員間の役割分担とチームワークの必要性を理解する。 ⑨安全及び疾病予防への配慮を理解する。 (2) 実習の方法 実習については、段階的に観察・参加・指導実習を体験する。 ① 観察実習 実際に教育現場を観察し、幼児の生活や遊びの様子、子どもと保育者との相互関係などについて理解を深める。 ② 参加実習 保育者の助手的な立場で実際に幼児と触れ合いながら保育に参加する。 ・生活面の援助及び指導について、保育者の補助をしながら指導方法を学ぶ。 ・幼児の活動に参加し、保育者の関わり方を学ぶ。 ・一日の保育活動が幼児の主体性を尊重し保育計画を基に展開されていることを理解する。 ③ 指導実習 ・担任教師の指導のもとに自ら指導計画を立案して、「部分保育」「設定保育」を体験し、保育の展開を学ぶ。					
【評価の方法】 現場評価 70% 提出物 30%					

【授業時間外の学修（準備・復習）】

準備：授業前にシラバスを見て授業内容を確認し必要なものを準備する。

復習：授業の学びをノートに記入する。

【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】

幼稚園教育要領解説 保育所・施設・幼稚園実習ステップブック第2版

【参考書・参考資料等】

教育実習 I -②の手引き

【授業科目名】 保育実習Ⅱ <実務経験のある教員による授業科目>			【担当教員名】 専任教員		
【授業形態】 実習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 10日間	【単位数】 2単位	【開講時期】 前期	【対象学年】 2年(長期履修者対象外)
【授業の概要】 ・保育所において10日間(80時間以上)学外実習を行う。(6月・集中実習) ・既習の知識や技術を基盤として、実習先施設において観察参加、指導実習(部分・設定保育)を行う。					
【授業の到達目標】 1. 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。 2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。 3. 既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解する。 4. 保育の計画・実践・観察・記録及び子育て支援について、実際に取り組み、総合的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。 6. 実習における自己の課題を明確化する。					
【実習内容】 1. 保育所の役割や機能としての具体的な取り組みについて理解する。 ①養護と教育が一体となって行われる保育 ②保育所の社会的役割と責任 2. 保育士と子どもの関係、関わり方を観察することで、保育について理解を深める。 ①子どもの心身の状況や活動の観察 ②保育士等の援助や関わり ③保育所の生活の流れや展開の把握 3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携の仕方を理解する。 ①環境を通して行う保育、生活や遊びを総合的に行う保育 ②入所している子どもの保護者支援及び地域の保護者等に対する子育て支援 ③関係機関や地域社会との連携・協働 4. 指導計画の作成・実践・観察・記録・評価と保育の課程について実践体験を通して学ぶ。 ①全体的な計画に基づく指導計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の課程の理解 ②作成した指導計画に基づく保育実践と評価 5. 保育士の業務と職業倫理を理解する。 ①多様な保育の展開と保育士業務 ②多様な保育の展開と保育士の職業倫理 6. 自己課題の明確化にする。					
【評価の方法】 ・現場評価[70%]、提出物[30%]					
【授業時間外の学修(準備・復習)】					
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】					
【参考書・参考資料等】 ・保育実習Ⅱの手引き					

【授業科目名】 保育実習指導Ⅱ <実務経験のある教員による授業科目>			【担当教員名】 専任教員		
【授業形態】 演習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 15回	【単位数】 1単位	【開講時期】 前期	【対象学年】 2年
【授業の概要】 1. 保育実習Ⅰの体験や学びを基に、保育実習Ⅱの意義や目的を知り、保育について総合的に学ぶ。 2. 講義や演習等で学んだ内容の関連性を踏まえ、保育への理解を深めるとともに実践力を身に付ける。 3. 保育の全体の計画に基づく具体的な保育計画について理解し、実習に向けた保育実習指導案を作成する。					
【授業の到達目標】 1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。 2. 保育実習Ⅰや既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己課題を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。					
【授業計画】 第 1回：保育実習Ⅰの振り返りと保育実習Ⅱの基本：オリエンテーション、それぞれの学びをグループで討論、保育所の一日の生活の流れ 保育展開の把握 第 2回：保育実習Ⅱの意義と目的：保育所に求められる社会的役割 多様な保育所の機能について 第 3回：保育実習Ⅱに向けて：実習先の概要及び実習目標について 実習課題の理解：保育実習Ⅱの方法の理解と課題作成 留意事項について 第 4回：実習記録の書き方：保育実習Ⅱにおける記録の書き方と保育をとらえる視点 第 5回：子どもの活動の理解①：環境を通して行う保育 生活や遊びを通して行う保育の理解 第 6回：子どもの活動の理解②：運動に関する指導と保育の理解 第 7回：保育計画と保育指導案①：保育の長期計画と短期計画の関係理解 保育指導案を書くことの意味と保育指導案作成 第 8回：保育計画と保育指導案②：保育指導案作成と教材準備、留意事項の確認 第 9回：保育実習Ⅱ振り返り 第 10回：保育実習報告 第 11回：実習後の学び：保育士の仕事理解と職業倫理・チームワークについて考える 第 12回：実習後の学び：保護者対応や家庭や地域との連携・子育て支援について考える 第 13回：事前・事後レポート課題について 第 14回：実習の心構えと自己課題の明確化① 第 15回：実習の心構えと自己課題の明確化②					
【評価の方法】 ・授業中に関する課題および提出物 [100%]					
【授業時間外の学修（準備・復習）】 ・各課題、実習準備に取り組む時間とする。 ・1回の授業あたり予習・復習・課題などを含めて、60～90分程度が望ましい。					

【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】

- ・保育所・施設・幼稚園実習ステップブック みらい社 ISBN:9784860155179
- ・実習日誌の書き方 中央法規 ISBN:9784805882184
- ・保育のマナーと言葉 わかば社 ISBN:9784907270353

【参考書・参考資料等】

- ・『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 ISBN:9784577814482
- ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府 文部科学省 厚生労働省 フレーベル館 ISBN:9784577813737

【授業科目名】 基礎演習 <実務経験のある教員による授業科目>			【担当教員名】 専任教員		
【授業形態】 演習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 30回	【単位数】 2単位	【開講時期】 通年	【対象学年】 1年
【授業の概要】 初年次学生が、本校の教育理念と歴史について学び、本校の学生としての誇りと自覚を持ち、専門学校生にふさわしい主体性・論理性・実行力を培い、学科の教育目標を達成できるようにグループワークなどを通して、コミュニケーション力を上げるとともに正しい言葉使いのできる保育者の育成を行う。					
【授業の到達目標】 1. 建学の精神、それに基づく教育目標、学院の歴史について理解する。 2. 主体的に学び、実践する姿勢を身につけ、積極的に意見を発表・伝達するために、本を読み、自ら考え、文章に表現するなどの基礎的な能力を養う。 3. 学生相互や教員との豊かで円滑な人間関係の基礎を築く。 4. 社会で活躍するための、キャリア形成の基礎を身につける。					
【授業計画】 第 1回：学校を理解する 「学院理解」「建学の理解」「教育目標」「本校の歴史」を学ぶ 第 2回：基礎演習とは 専門学校生活のオリエンテーション・履修の方法・授業に臨む姿勢マナーについて・校内見学・クラス目標決め・クラス役員決め 第 3回：本校で学ぶ目的の理解、資格を習得する学びの方法及び内容の理解専門職に必要な社会人マナー指導（正しい挨拶・電話の仕方・身だしなみなど）時間割・学年暦の確認 第 4回：校外学習を通し戸外で運動する楽しさや社会人のマナーを守って行動する 第 5回：協力して校外学習に取り組み、同級生や教員との交流を深める 第 6回：社会人マナー講座（1） 正しい言葉使い・敬語（「丁寧語」「尊敬語」「謙譲語」）を理解する。挨拶の仕方・電話の応対・教員室の入り方・校内での挨拶の仕方・お礼状の作成・ビジネス会話の演習・たしなみ・服装など 第 7回：人権教育① 専門職に就くとこの理解、学び方についての指導 第 8回：「知へのステップ」第1章「スタディ・スキルズとは」 第 9回：「知へのステップ」第2章「ノート・テイキング」の演習 第10回：「知へのステップ」第3章「リーディングの基本スキル」を学ぶ テキストを読むとは 第11回：「知へのステップ」第4章「より深いリーディングのために」要約とは 第12回：「保育の必要な漢字」幼稚園教育要領・保育所保育指針・児童福祉法などの漢字に強くなる 第13回：社会人マナー講座（2）「日常の手紙の書き方」 第14回：社会人マナー講座（3）「お礼状の書き方」 第15回：人権教育② 社会人マナー講座（4）保育現場の経験者から伝授してもらおう 第16回：「知へのステップ」第8章 アカデミック・ライティングの基本スキル 文章作成 レポートの書き方 第17回：ブレインストーミングにより自分達の意見や考えをまとめる 第18回：企画達成のための個々の役割分担と運営方法のシミュレーションをする 第19回：共通の目標の達成に向かって協調性や企画運営する力を身に付ける 第20回：役割に責任をもち、目的遂行のために協力したりトラブルに対応する力を身に付ける					

第21回：「知へのステップ」第9章 効果的なアカデミック・ライティング わかりやすい文とは
第22回：「知へのステップ」第11章 プレゼンテーションの基本スキル
第23回：「レポート」を振り返る 自分の書いたレポートを振り返り、添削・修正してみよう
第24回：人権教育③ コミュニケーションスキルを学ぼう
第25回：アサーティブトレーニングを演習してみよう
第26回：心身の健康管理について メンタルヘルスを整える(バイオリズム・自己コントロールなど)
第27回：自分を分析してみよう 人と関わる仕事をするにふさわしいかを自己分析する
第28回：労働条件セミナー 次年度に向けた意識づけ
第29回：自分磨きのために 一ベンチマーク・履修カルテー 自己課題と向き合う
第30回：これでいいのか考えてみよう 学校外での学生評価から考える
まとめ・振り返り

定期試験

【評価の方法】

定期試験 50%

授業で課すワークおよび提出物による評価 50%

【授業時間外の学修（準備・復習）】

知のステップ等の事前予習及び課題提出

【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】

「知へのステップ」 学習技術研究会 くろしお出版, 「保育のマナーと言葉」 わかば社, 講義概要・学生便覧

【参考書・参考資料等】

保育所保育指針、保育所保育指針解説

幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

【授業科目名】 体育理論			【担当教員名】 齋藤 光		
【授業形態】 講義	【必修・選択】 必修	【授業回数】 8回	【単位数】 1単位	【開講時期】 前期	【対象学年】 1年
【授業の概要】 幼児の発育発達における身体的特徴、体育・スポーツの意義、運動の指導に関する際の配慮事項などを学び、指導現場でそれらを活かす力を身に付ける。					
【授業の到達目標】 幼児の発育発達における身体的特徴や身体運動の重要性、教育的な意義、運動遊びの指導時における知識や安全管理について理解したうえで、それらを整理し指導現場で活かす具体的な方法を考えることができる。					
【授業計画】 第 1回：体育・スポーツとは何か 第 2回：アイスブレイク 第 3回：体育・スポーツとの関わり方（する・観る・支える）と学び方（できる・わかる） 第 4回：体力・運動能力測定 第 5回：スポーツ障害・スポーツ外傷と安全管理・応急手当 第 6回：体育・スポーツ分野での競争 第 7回：園主催の体育行事・スポーツイベントづくり 第 8回：成果物の発表と授業のまとめ 定期試験は実施しない					
【評価の方法】 1 授業への取り組み・討論への貢献（40%） 2 授業内容に関する小レポート（30%） 3 授業の学びを活かした成果物・発表（30%）					
【授業時間外の学修（準備・復習）】 ・授業計画にある用語や関連するニュース等を調べておくことや後述の参考資料を読むことを通じた、準備（予習）・復習を期待します。					
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 ・必要な資料は、適宜配布します。					
【参考書・参考資料等】 ・佐藤洋編（2022）『スポーツ健康科学』、みらい ・スポーツ庁（2016）『幼児期の運動に関する指導参考資料 第二集』 ⟨ https://www.youtube.com/watch?v=RUBM30L-c1Y ⟩ ・出村慎一監（2011）『幼児のからだを測る・知る』、杏林書院 ・文部科学省 幼児期運動指針策定委員会（2012）『幼児期運動指針ガイドブック』 ⟨ https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/undousisin/1319772.htm ⟩ ・文部科学省（2015）『幼児期の運動に関する指導参考資料 第一集』 ⟨ https://www.youtube.com/watch?v=QEZAi7Q6zXE ⟩					

【授業科目名】 スポーツ実技			【担当教員名】 若杉 祥太 齋藤 光		
【授業形態】 実技	【必修・選択】 必修	【授業回数】 15回	【単位数】 1単位	【開講時期】 後期	【対象学年】 1年
【授業の概要】 スポーツ実技を通じ、各種スポーツ能力の向上および自己の健康と体力を適切に管理できる能力を養う。また、「幼児期運動指針（文部科学省）」に基づき、幼児期に求められる運動能力について学び、運動の適切な指導・支援・補助する方法を体験的に学ぶ。					
【授業の到達目標】 ・自己の健康と体力を適切に管理できる。 ・幼児期の運動能力について説明できる。 ・幼児の運動を適切に指導・支援・補助できる。					
【授業計画】 第 1回：授業の進め方、評価、環境整備、グループ分け 第 2回：運動能力の把握 第 3回：準備運動の在り方と方法①、基礎体力向上 第 4回：準備運動の在り方と方法②、基礎体力向上 第 5回：マット運動・鉄棒の基礎① 第 6回：マット運動・鉄棒の基礎② 第 7回：マット運動・鉄棒の応用① 第 8回：マット運動・鉄棒の応用② 第 9回：マット運動の指導・支援・補助① 第 10回：マット運動の指導・支援・補助② 第 11回：鉄棒の指導・支援・補助① 第 12回：鉄棒の指導・支援・補助② 第 13回：縄跳びの基礎 第 14回：縄跳びの応用 第 15回：授業のまとめ 定期試験					
【評価の方法】 実技参画（50%）とレポート（50%）により評価する。					
【授業時間外の学修（準備・復習）】 ・筋力トレーニング・柔軟など身体能力向上に努める ・健康的な生活を送る ・幼児の身体操作を意識的に観察するとともに幼児運動の情報収集をする					
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 なし					
【参考書・参考資料等】 必要に応じて資料を配布する					

【授業科目名】 ICTの活用（基礎）			【担当教員名】 若杉 祥太 谷口 一也		
【授業形態】 講義	【必修・選択】 必修	【授業回数】 15回	【単位数】 2単位	【開講時期】 前期	【対象学年】 1年
【授業の概要】 1. 学内のシステム環境を理解したうえで電子メールやLMSの利用ができる。 2. コンピュータを適切に利用するためのコンピュータの仕組みや働きに関する基礎知識を得る。 3. インターネットを安全に利用するための情報倫理や情報検索に関する基礎知識を得る。 4. Microsoft wordに関する基礎知識とレポート作成のための基礎技能を習得する。 5. Microsoft wordを用いて効果的なポスターが作成できる。					
【授業の到達目標】 コンピュータの初心者のために、コンピュータやインターネットの基礎知識、情報倫理、情報検索について学ぶ。さらに、Microsoft wordを用いてレポートやポスターなど、実際にコンピュータを操作しながら基礎的な知識や技能を習得する。					
【授業計画】 第 1回：オリエンテーション、学習方法の説明、評価方法 第 2回：電子メール、LMSの使い方、教育方法、著作権 第 3回：コンピュータの基本構成と働き 第 4回：インターネットの特徴と情報倫理、情報検索 第 5回：Microsoft wordの基本操作 第 6回：Microsoft wordの様々な機能と使い方① 第 7回：Microsoft wordの様々な機能と使い方② 第 8回：Microsoft wordを用いたレポート・記録作成のための基礎技能① 第 9回：Microsoft wordを用いたレポート・記録作成のための基礎技能② 第10回：Microsoft wordを用いたポスター作成① 第11回：Microsoft wordを用いたポスター作成② 第12回：Microsoft Excelの基本操作 第13回：Microsoft Excelの様々な機能と使い方 第14回：Microsoft PowerPointの基本操作 第15回：Microsoft PowerPointの様々な機能と使い方① 定期試験					
【評価の方法】 課題50%、最終レポート50%					
【授業時間外の学修（準備・復習）】 ・指示したテキストページの予習・復習 ・授業課題の作成					
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 いちばんやさしいワード&エクセル&パワーント超入門・早田絵里・SBクリエイティブ・9784815616168					
【参考書・参考資料等】 なし					

【授業科目名】 英語コミュニケーション			【担当教員名】 平田 淳一郎		
【授業形態】 演習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 15回	【単位数】 2単位	【開講時期】 前期	【受講対象者】 1年 (長期履修者対象外) 2年長期履修者
【授業の概要】 保育現場での英会話をを行うために必要な英文法を学ぶ。また同時並行で、絵本の読み聞かせやゲームなどを英語で行えるように練習を行う。					
【授業の到達目標】 保育現場で実際に使用される英語表現や専門用語を習得し、運用する力を身につける。 また多様な時代において保育現場で必要とされる英会話能力を養うこととする。					
【授業計画】 第 1回 : Chapter 1: Hi, I'm Yuri Tanaka 第 2回 : Chapter 2: Where Is the Multi-purpose Room 第 3回 : Chapter 3: Good morning. How Are You Today? 第 4回 : Chapter 4: What Color Do You Like? 第 5回 : Chapter 5: There's a Ladybug on the Leaf 第 6回 : Chapter 6: It's Time to Play Outside 第 7回 : Chapter 7: She Is Allergic to Eggs 第 8回 : Chapter 8: You Should Go to the Bathroom 第 9回 : Chapter 9: We Made Masks Today 第 10回 : Chapter 10: If It rains, What Happens? 第 11回 : Chapter 11: What Shall We Do Today? 第 12回 : Chapter 12: I Feel Feverish 第 13回 : Chapter 13: This Is Yuri From Cosmos Day Care Center 第 14回 : Chapter 14: Thank You Very Much for Everything 第 15回 : まとめ 定期試験					
【評価の方法】 定期試験 50% 小テスト 10% 授業中のワーク・アクティヴィティーの評価 40%					
【授業時間外の学修（準備・復習）】 2回目以降の授業から単語テストを行いますので、授業内で学習した英単語を復習しておいてください。 また適宜、コミュニケーション活動などを行いますので、そちらの準備については追って連絡します。					
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 Happy English for Childcare 土屋麻衣子 金星堂 9784764740082 c1082					
【参考書・参考資料等】 プリントを配布します。					

【授業科目名】 保育原理 <実務経験のある教員による授業科目>			【担当教員名】 吉田 しのぶ		
【授業形態】 講義	【必修・選択】 必須	【授業回数】 15回	【単位数】 2単位	【開講時期】 前期	【対象学年】 1年
【授業の概要】 保育は楽しくやりがいのある仕事であると同時に、「命を預かる」という責任の重い、厳しく難しい仕事である。充実した保育が展開できるよう、基本である原理を修得する。					
【授業の到達目標】 1 保育の意義及び目的、保育に関する法令及び制度を理解する。 2 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育の基本について理解する。 3 保育の思想と歴史的変遷を知り、保育の現状と課題について理解する。					
【授業計画】 第 1回：オリエンテーション/保育原理とは何かを理解する 第 2回：「子どもの育ち」とは？ 子どもの発達とは何か？を理解する 第 3回：「保育はどこで行われているの」主な保育施設を理解する 第 4回：「保育の基本とは」保育所保育指針の制度的な位置づけを理解する 第 5回：「保育のねらい」と「内容と方法」 I 乳児と1・2歳児の理解と保育の重要性 第 6回：「保育のねらい」と「内容と方法」 II 3歳未満児の保育で重要なこととは何か 第 7回：「保育のねらい」と「内容と方法」 III 3歳以上児の保育の実情を理解する 第 8回：「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とは 小学校との連携を理解する 第 9回：「保育の計画」とは 教育課程・全体的な計画とカリキュラム・マネジメントとは 第10回：「保育の専門家」とは これから保育者に必要な資質とは何か 第11回：「子育て支援」とは 保護者・地域との連携について 第12回：「海外の保育思想と歴史」海外の保育思想を知る 第13回：「日本の保育思想と歴史」日本の保育観と変遷 第14回：「保育の現状と課題」今、問題になっていることは？ 今後の課題とは？ 第15回：「保育原理」のまとめ 学びを振り返る 定期試験					
【評価の方法】 定期試験 60% 提出物（課題・ワークシートなど）40%					
【授業時間外の学修（準備・復習）】 ワークシートによる復習課題（隨時） 次回の授業範囲のテキストの音読と専門用語の確認					
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 つながる保育原理 著者名 井上孝之・小原敏郎・三浦主博 第2版 出版社（株）みらい					
【参考書・参考資料等】 幼稚園教育要領、幼稚園教育要領解説・保育所保育指針、保育所保育指針解説 幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説					

【授業科目名】 子ども家庭福祉 <実務経験のある教員による授業科目>			【担当教員名】 岩崎 巧		
【授業形態】 講義	【必修・選択】 必修	【授業回数】 15回	【単位数】 2単位	【開講時期】 後期	【対象学年】 1年
【授業の概要】 近年、子どもと家庭を取り巻く状況は多様化しており、子どもの最善の利益にかかる保育者の役割として、子どもの保育だけでなく保護者支援も重要となっている。本講義では、子どもの権利や子ども家庭福祉の理念を捉え、支援体制としての法体系を理解したうえで、実践現場に求められる支援について事例を通して理解を深めていくことを目的とする。					
【授業の到達目標】 <ul style="list-style-type: none">・子どもを取り巻く問題と社会的背景を説明できる・子どもの権利やこども家庭福祉の理念を説明できる・子どもの問題に対応する法制度の概要を説明できる・子ども家庭福祉に携わる専門職の役割を説明できる・子ども家庭福祉の実践現場にはどのような支援が求められているのか考察できる					
【授業計画】 第 1回：オリエンテーション・子ども家庭福祉とは 第 2回：子どもの貧困 第 3回：こどもの権利保障の歴史背景 第 4回：子どもの人権擁護 第 5回：子ども家庭福祉の法制度 第 6回：子ども家庭福祉の施設と専門職 第 7回：少子化と地域子育て支援 第 8回：子ども虐待・ドメスティックバイオレンス（DV）とその防止 第 9回：少年非行等への対応 第10回：障害のある子どもへの対応 第11回：外国籍の子どもとその家庭への対応 第12回：ヤングケアラーへの対応 第13回：子ども家庭福祉における支援と課題①（グループワーク） 第14回：子ども家庭福祉における支援と課題②（グループ発表・ディスカッション） 第15回：地域における連携・協働とネットワーク 定期試験					
【評価の方法】 授業内課題（ワークシート）（50%） 課題発表（30%） 最終課題（20%）で評価					
【授業時間外の学修（準備・復習）】 各授業前に、穴あき形式の問題を出題。前回資料を基に、復讐しておくよう意識づける。					
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 『基本保育シリーズ③子ども家庭福祉』第2版・新保幸男, 小林理 編 (2023) /中央法規 ISBN: 9784805887868					
【参考書・参考資料等】 特になし					

【授業科目名】 社会的養護 I <実務経験のある教員による授業科目>			【担当教員名】 山下 知一		
【授業形態】 講義	【必修・選択】 必修	【授業回数】 15回	【単位数】 2単位	【開講時期】 後期	【対象学年】 1年
【授業の概要】 社会的養護とは何かという事を踏まえながら、現代社会の子どもを取り巻く状況や社会的養護の方向性について学ぶ。 また、社会的養護の仕組み、関係している人や機関、法律、施設、歴史など順を追って確認しながら、人に関わる上で大切な視点、価値、技術についても学びを深めていく。					
【授業の到達目標】 子どもの最善の利益を目指した、社会的養護の仕組みが分かるようになる。 社会的養護に関わる専門職や機関や役割、法律、歴史等を理解できるようになる。 人に関わる上で大切な視点、価値、技術を学び、対人支援の専門性を身に付けて活用できるようになる。					
【授業計画】 第 1回：オリエンテーション・社会的養護の理解と方向性 第 2回：子どもを取り巻く社会の現状と子どもの権利 第 3回：施設養護、家庭的養護、家庭養護の理解について 第 4回：社会的養護にかかわる機関・社会的養護に関する法律について 第 5回：社会的養護に関する法律について・措置を基本とする社会的養護施設 第 6回：措置を基本とする社会的養護施設・利用契約を基本とする施設 第 7回：利用契約を基本とする施設・調べましょう 第 8回：社会的養護の歴史と変遷 第 9回：社会的養護の支援の実際 第10回：ソーシャルワークと家庭支援 第11回：里親制度と里親支援① 第12回：里親制度と里親支援② 第13回：児童福祉施設の運営管理 第14回：リスクマネジメント① 第15回：リスクマネジメント② 定期試験					
【評価の方法】 「授業後の振り返りシート」（50%）と「定期試験（レポート）」（50%）の総合評価。					
【授業時間外の学修（準備・復習）】 社会的養護の授業内容に関連する資料や文献を調べて、読んでおく。					
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 テキストは指定せず、授業に必要な資料を適宜配布します。					
【参考書・参考資料等】 原田旬哉・杉山宗尚(2023).『図解で学ぶ保育 社会的養護 I』.萌文書林					

【授業科目名】 発達心理学			【担当教員名】 清水 智子		
【授業形態】 講義	【必修・選択】 必修	【授業回数】 15回	【単位数】 2単位	【開講時期】 後期	【対象学年】 1年 (長期履修者対象外) 2年長期履修者
【授業の概要】 子どもの発達過程や特徴を理解することの意義について考え、発達理論等の心理学的知識を学んで子どもが発達していくには人との関わりが重要であることの理解を深める。また、子どもの学びに関する基礎的知識を身に付け、子どもの主体的な学びを支える応答的なかかわり方について考える。					
【授業の到達目標】 (1) 子どもの発達過程や特徴を理解することの意義を理解する。 (2) 発達に関する心理学的な知識を学び、各時期における運動・言語・認知・社会性の発達について理解する。 (3) 子どもの学びに関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた援助のあり方を理解する。					
【授業計画】 第 1回 : 子どもの発達を理解することの意義 第 2回 : 初期経験の重要性 エリクソンの心理社会的発達理論 第 3回 : 社会情動的発達 ①自己の発達 第 4回 : 社会情動的発達 ②情動の発達 第 5回 : 社会情動的発達 ③情動調整の発達 第 6回 : 身体の機能と運動の発達 第 7回 : 認知の発達 ①ピアジェの発達理論 第 8回 : 認知の発達 ②心の理論 第 9回 : 言語の発達とコミュニケーション 第10回 : 愛着について ①ボウルビィの愛着理論 第11回 : 愛着について ②エインズワースの愛着の質の測定 第12回 : 遊びについて ①ピアジェによる遊びの分類 第13回 : 遊びについて ②バーテンによる遊びの分類 第14回 : 子どもの学びを支える保育 応答的なかかわりとは 第15回 : ヴィゴツキーの発達の最近接領域 まとめと振り返り 定期試験					
【評価の方法】 授業の課題提出 40% 、定期試験 60%					
【授業時間外の学修（準備・復習）】 事前にテキストを読んで「エクササイズ」に取り組む 復習のためにテキストや授業資料をまとめ、課題に取り組む					
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 シリーズ知のゆりかご 保育の心理学 青木紀久代（編） みらい 9784860154844					
【参考書・参考資料等】					

【授業科目名】 子どもの保健 <実務経験のある教員による授業科目>			【担当教員名】 高師 瑞希 宮田 京子		
【授業形態】 講義	【必修・選択】 必修	【授業回数】 15回	【単位数】 2単位	【開講時期】 後期	【対象学年】 1年
【授業の概要】 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解し、子どもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について学習する。子どもの健康状態、病気と予防法及び適切な対応について学習する。					
【授業の到達目標】 ① 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を説明できる。 ② 子どもの身体的な発育・発達と保健について説明できる。 ③ 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について説明できる。 ④ 子どもの病気とその予防法及び多職種間の連携・協働の下での適切な対応を説明できる。					
【授業計画】 第 1回：保健活動の意義と目的 第 2回：子どもの出生と母子保健の意義 第 3回：現代社会における子どもの健康に関する現状と課題 第 4回：子どもの身体発育と運動機能の発達 第 5回：子どもの生理機能の発達と生活習慣① 第 6回：子どもの生理機能の発達と生活習慣② 第 7回：地域における保健活動と子どもの虐待防止 第 8回：子どもの健康状態の観察と体調不良時の把握 第 9回：子どもの免疫の発達と感染症の特徴 第10回：救急疾患の特徴と適切な対応 第11回：新生児の病気、新生児期にわかる先天性の病気の特徴と対応 第12回：アレルギー疾患の特徴と適切な対応 第13回：慢性疾患の特徴と適切な対応 第14回：保護者との情報共有と家族の支援 第15回：子どもの健康診断と関係機関との連携 定期試験					
【評価の方法】 定期試験 60% 提出物 40%					
【授業時間外の学修（準備・復習）】 授業終了後に提示する次回の授業内容箇所のページを一読する。また振り返り問題を実施する。					
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 授業で現場で役に立つ！子どもの保健テキスト（改訂第3版）小林 美由紀 診断と治療社 ISBN9784787827012					
【参考書・参考資料等】					

【授業科目名】 子ども理解と援助 <実務経験のある教員による授業科目>			【担当教員名】 阪本 満		
【授業形態】 演習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 15回	【単位数】 1単位	【開講時期】 後期	【対象学年】 1年
【授業の概要】 子どもの実態に応じた発達や学びの過程を把握する意義を理解し、子どもを理解するまでの基本的な視点を身につける。また、発達援助のための基本的態度や具体的方法をグループワークや発表を通して体験的に学び修得する。					
【授業の到達目標】 ①保育における実態に応じた一人一人の子どもの心身の発達、学びを把握することの意義を実践と結び付けて理解する。 ②子どもを理解するための具体的な視点や方法について理解する。 ③子ども理解に基づく保育者の姿勢や援助について具体的な事例をイメージしながら説明できる。					
【授業計画】 第 1回：オリエンテーション 子ども理解と援助とは? 第 2回：「今、ここ」の子どもの内面にせまる理解① 他者の内面について 第 3回：「今、ここ」の子どもの内面にせまる理解② 子どもの内面を理解しようとするプロセス 第 4回：共感的理解について 第 5回：「生活」を通しての子ども理解 第 6回：「遊び」を通しての子ども理解① 遊びの種類 第 7回：「遊び」を通しての子ども理解② 繼続した遊びの中での10の姿の育ち 第 8回：人的環境としての保育者の役割 第 9回：発達の段階に応じた子ども理解 第10回：「集団での育ち」からの子ども理解 第11回：葛藤やつまずきについて① いざこざの対応 第12回：葛藤やつまずきについて② 葛藤を焦点にしたDVD視聴 第13回：特別な配慮を要する子どもの理解 発達障害・集団での育ち（インクルーシブ的視点） 第14回：観察/記録/省察/評価・職員間の対話と連携 第15回：発達の連続性と就学への支援 まとめ 定期試験					
【評価の方法】 定期試験 60%， 授業ワークシート等の提出物 40%					
【授業時間外の学修（準備・復習）】 グループ発表の資料作成・課題提出					
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 子ども理解と援助 子どもの育ちと学びの理解と保育実践 藪中征代・玉瀬友美 編著 萌文書林 ISBN 9784893473714					
【参考書・参考資料等】 幼稚園教育要領解説・保育所保育指針解説 その他の必要資料は授業内配布					

【授業科目名】 教育の方法と技術 <実務経験のある教員による授業科目>			【担当教員名】 藤井 和子		
【授業形態】 講義	【必修・選択】 必修	【授業回数】 15回	【単位数】 2単位	【開講時期】 後期	【対象学年】 1年 (長期履修者対象外) 2年長期履修者
【授業の概要】 幼児教育現場における教育方法について理解を深め、情報機器を活用した実践的な指導技術を身に付け、情報機器および教材を教育・保育現場に効果的に活用できるリテラシー能力を養う。					
【授業の到達目標】 <p>(1) 教育の方法論 到達目標：1) 教育方法の基礎的理論と実践を理解できている。 2) これから社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方(主体的・対話的で深い学びの実現など)を理解できている。 3) 学級・幼児・教員・保育室・教材など保育を構成する基礎的な要件を理解できている。 4) 育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた評価の基礎的な考え方を理解できている。</p> <p>(2) 教員の技術 到達目標：1) 教育・保育を行う上での基礎的な技術を身に付けています。 2) 基礎的な子供の発達を踏まえて、目標・内容、教材・教具、授業・保育展開、保育形態、評価基準等の視点を含めた保育指導案を作成することができる。</p> <p>(3) 情報機器及び教材の活用 到達目標：1) 子供たちの興味・関心を高めたり課題を明確につかませたり保育内容をふりかえったりするために、幼児の体験との関連を考慮しながら情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。 2) 子供たちの情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための指導法を理解している。</p>					
【授業計画】 第 1回：保育の出発点としての幼児理解 第 2回：幼児の発達に関わる様々な課題 第 3回：幼児の発達や学びの過程を捉える視点 第 4回：幼児期にふさわしい教育の方法 第 5回：幼児の主体的な生活を基盤とする保育 第 6回：遊びのなかの学びをはぐくむ保育 第 7回：保育指導案作成の教材研究 第 8回：保育指導案の作成及び実践内容の検討 第 9回：保育における評価 第10回：幼児期の教育と小学校教育の連携 第11回：家庭や地域と連携した保育 第12回：幼児を取り巻く情報環境 第13回：情報機器を活用した教材の作成 第14回：情報機器を活用したクラスだよりの作成 第15回：まとめと振り返り 定期試験 <p>【評価の方法】 定期試験 (50%)、課題提出等 (50%)</p>					

【授業時間外の学修（準備・復習）】

準備：授業の前にシラバスで何を学修するのかを確認する。

復習：授業終了時に提示する幼稚園教育要領解説の文章を読み、ノートにまとめる

【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】

適宜資料を配布する。

【参考書・参考資料等】

幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、保育所保育指針解説

新 保育ラブリ 保育の内容・方法を知る 幼児教育の方法 (株)北大路書房

幼児教育・保育のための教育方法論 垂見直樹 (編集), 池田竜介 (編集)ミネルヴァ書房

【授業科目名】 子どもと健康			【担当教員名】 齋藤 光		
【授業形態】 演習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 8回	【単位数】 1単位	【開講時期】 後期	【受講対象者】 1年 (長期履修者対象外) 2年長期履修者
【授業の概要】 健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の指導の基盤となる知識、技能を身につける。具体的には、幼児の心身の発達、基本的生活習慣、安全な生活、運動発達等において、幼児期には大人と違った特徴や意義があることを踏まえ、その相違が指導方法にも関連していることについて理解する。					
【授業の到達目標】 (1) 乳幼児における健康上の課題と発達的意味 (2) 乳幼児における体の諸機能の発達と生活習慣の形成 (3) 乳幼児における安全な生活と怪我の特徴や予防 (4) 乳幼児における運動発達の特徴と意義について理解し、説明することができる					
【授業計画】 第 1回：乳幼児期の健康課題 第 2回：乳幼児の身体の発達的特徴 第 3回：乳幼児の生活習慣の形成 第 4回：幼児の安全教育と予防・対応 第 5回：乳幼児の運動発達の特徴 第 6回：日常生活における運動・遊びとしての運動 第 7回：授業の学びを踏まえた成果物の作成 第 8回：成果物の発表と授業のまとめ					
【評価の方法】 1 授業への取り組み（グループワーク・討論など） (40%) 2 授業内容に関する小レポート (30%) 3 授業の学びを活かした成果物・発表 (30%)					
【授業時間外の学修（準備・復習）】 ・各回のテキスト該当箇所を読むことを通じた、積極的な準備（予習）・復習を期待します。					
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 ・秋田喜代美・三宅茂夫監 (2020) 『子どもの姿からはじめる 領域・健康』、みらい (ISBN:9784860155285)					
【参考書・参考資料等】 ・大豆生田啓友 (2013) 『保育が見えるおたよりづくりガイド』、赤ちゃんとママ社 ・宮下恭子監 (2023) 『オンライン授業に対応 乳幼児の健康（改訂版）』、大学図書出版					

【授業科目名】 子どもと人間関係 <実務経験のある教員による授業科目>			【担当教員名】 藤井 和子		
【授業形態】 演習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 8回	【単位数】 1 単位	【開講時期】 前期	【対象学年】 1 年
【授業の概要】 現代の幼児の人間関係の育ちに影響を与えていたる社会的要因について理解し、幼児教育で保障すべき教育内容に関する知識を身に付ける。特に、領域「人間関係」の指導の基盤となる基礎理論として、関係発達論的視点について学び、他者との関係や集団との中で幼児期の人と関わる力が育つことを理解する。					
【授業の到達目標】 (1) 幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。 1) 幼児を取り巻く人間関係の現代的特徴とその社会的背景を理解できている。 2) 人と関わる力の育ちがその後に続く一人一人の人生を支える力となることを理解できている (2) 幼児期の人間関係の発達について幼稚園生活における関係発達論的視点から理解する。 1) 乳児期に育つ人と関わる力の発達について、身近な大人との関係から説明できる。 2) 幼児期の生活や遊びの中で育つ人と関わる力の発達について、教師との関係、幼児との関係、集団の中での育ちを観点として説明できる。 3) 自立の育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。 4) 協同性の育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。 5) 道徳性・規範意識の芽生えについて、発達の姿と合わせて説明できる。 6) 家族や地域とのかかわりと育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。					
【授業計画】 第 1回：現代社会と幼児の人間関係 家庭・地域での経験と幼児期に期待されるもの 第 2回：3歳未満児における人間関係の発達 身近な大人との関係を基盤として育つ子ども 第 3回：幼児期の生活や遊びの中で見られる人と関わる力の育ち 関係性の育ちや個と集団の育ちを視点として 第 4回：乳幼児期の自立心の育ち 「いや」「じぶん」から始まる自立への道 第 5回：幼児期の協同性の育ち 目標を共有し協力してやり遂げようとする力の育ち 第 6回：幼児期の道徳性・規範意識の芽生えと育ち 他者との葛藤体験を通してきまりの必要性を理解し、気持ちを調整し折り合いをつける力の育ち 第 7回：乳幼児期の人間関係のひろがり 家庭生活～園生活～地域へとひろがる場と関係性の中での育ち 第 8回：幼児期に育みたい資質・能力と人間関係 乳児期・幼児期・学童期以降の育ちのつながりの理解 定期試験					
【評価の方法】 定期試験 60 % 課題提出 40 %					
【授業時間外の学修（準備・復習）】 準備：授業前にシラバスを確認し必要なものを準備する。 復習：授業において学んだことをノートに記入する。					

【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】

適宜資料を配布する

【参考書・参考資料等】

幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、保育所保育指針解説

【授業科目名】 子どもと環境 <実務経験のある教員による授業科目>			【担当教員名】 平野 忠男		
【授業形態】 演習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 8回	【単位数】 1単位	【開講時期】 前期	【対象学年】 1年
【授業の概要】 乳幼児を取り巻く環境（もの、自然、人、社会など）について理解する。乳幼児の環境とのかかわりとそれにより促される乳幼児の育ちと学ぶ。また、幼稚園・保育所に見られる園内外の環境について事例の検討やグループワークを通し、保育者の役割について理解を深める。					
【授業の到達目標】 <ul style="list-style-type: none">・乳幼児を取り巻く環境の諸側面（物的環境、人的環境、社会的環境など）の重要性とその現代的課題について説明できる。・幼稚園・保育所に見られる園内外の環境について理解する。・乳幼児と環境のかかわり方について、能動性、好奇心、探求心などの観点から説明できる。・乳幼児期の認知的発達の特徴と道筋を踏まえて、物理的事象、数量・図形、生き物、自然に対する乳幼児の興味・関心、理解の発達を説明できる。・乳幼児を取り巻く標識・文字などの環境や乳幼児の生活に関係の深い情報・施設への興味・関心、かかわり方について説明できる。					
【授業計画】 <p>第 1回：乳幼児期の独自性と領域「環境」/幼稚園・保育所での環境を考える</p> <p>第 2回：乳幼児期の発達と環境　—乳幼児期の発達、遊び、集団保育—</p> <p>第 3回：ものとのかかわりを通じた乳幼児期の育ちと学び</p> <p>第 4回：自然とのかかわりを通じた乳幼児期の育ちと学び 　　—植物、動物、土・砂・泥、季節等への親しみ—</p> <p>第 5回：人とのかかわりを通じた乳幼児期の育ちと学び 　　—保育者、友だち、保護者、地域の人々とのふれ合い—</p> <p>第 6回：社会とのかかわりを通じた乳幼児期の育ちと学び 　　—標識・文字、生活に関係の深い情報や施設、地域の伝統文化への関心や親しみ—</p> <p>第 7回：数量・図形などへの関心や科学性の芽生えを促す環境 　　—子どもの主体的な遊びや活動、遊びの継続と深化—</p> <p>第 8回：環境における現代的課題持続可能な開発のための教育（ESD）など</p> <p>定期試験</p>					
【評価の方法】 <ul style="list-style-type: none">・授業に対する取り組み（課題・提出物・発表など）[50%]、定期試験[50%]					
【授業時間外の学修（準備・復習）】 <ul style="list-style-type: none">・課題や小テストに向け各自復習を行うこと。・1回の授業あたり予習・復習・課題などを含めて、30～60分程度が望ましい。					
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 <ul style="list-style-type: none">・『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 フレーベル館 ISBN:9784577814475・『保育所保育指針解説』 厚生労働省 フレーベル館 ISBN:9784577814482					
【参考書・参考資料等】 <ul style="list-style-type: none">・『学びを支える保育環境づくり～幼稚園・保育園・認定こども園の環境構成～』 高山静子著 小学館					

【授業科目名】 子どもと言葉 <実務経験のある教員による授業科目>			【担当教員名】 藤田 千波		
【授業形態】 演習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 8回	【単位数】 1単位	【開講時期】 前期	【対象学年】 1年
【授業の概要】 <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期の言葉の発達過程を理解し、言葉の重要性と言葉の発達に関わる保育者の役割を学び援助のあり方を身につける。 ・子どもが触れる文化、子どもにとっての文化について様々な表現活動から概観し、健全な育ちとのかかわりについて考える。 					
【授業の到達目標】 <p>(1) 人間にとての言葉の意義や機能を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 人間にとての話し言葉や書き言葉などの言葉の意義と機能について説明できる。 2) 乳幼児の言葉の発達過程について、言葉の機能への気づきも含めて説明できる。 <p>(2) 言葉に対する感覚を豊かにする意義について理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 言葉の楽しさや美しさについて、具体的な例を挙げて説明できる。 2) 言葉遊びなどの言葉の感覚を豊かにする実践について、基礎的な知識を身につける。 3) 言葉の楽しさや美しさに気づき、言葉を豊かにする実践を、幼児の発達の姿と合わせて説明できる。 <p>(3) 幼児にとっての指導文化財の意義を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 児童文化財（絵本・物語・紙芝居等）について、基礎的な知識を身につける。 2) 幼児の発達における児童文化財の意義について理解する。 					
【授業計画】 <p>第 1回：人間と言葉：人間にとての言葉の意義と役割</p> <p>第 2回：言葉の獲得：言葉の働きと領域「言葉」</p> <p>第 3回：言葉の獲得：乳幼児期の言葉の発達過程</p> <p>第 4回：言葉の獲得：言葉の楽しさ・美しさ</p> <p>第 5回：言葉に対する感覚を豊かにする実践の実際：子どもと楽しむ言葉あそびを考える</p> <p>第 6回：言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財：子どもにとっての児童文化財の意義</p> <p>第 7回：言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財の実際：保育への取り入れ方</p> <p>第 8回：言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財を用いた実践：絵本作り</p> <p>定期試験</p>					
【評価の方法】 <p>定期試験 50% 授業課題等提出物・手作り絵本 50%</p>					
【授業時間外の学修（準備・復習）】 <p>事前にテキストを読んで準備し、前回までの学習内容を確認しておく。</p> <p>毎回の授業内容を復習し、十分に理解できなかった内容（専門用語など）について自分で調べたり、担当教員に質問したりして理解を深める。</p>					
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 <p>子どもの姿からはじめる 領域・言葉 秋田喜代美・三宅茂夫監修 出版社（株）みらい ISBN番号 9784860155261</p>					
【参考書・参考資料等】 <p>幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説</p>					

【授業科目名】 子どもと表現			【担当教員名】 榎本 優人		
【授業形態】 演習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 8回	【単位数】 1単位	【開講時期】 後期	【受講対象者】 1年 (長期履修者対象外) 2年長期履修者
【授業の概要】 領域「表現」の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにするさまざまな表現遊びや環境構成などについて実践的に学び、幼児期の表現活動を支援するための知識・技能・表現力を身に付ける。					
【授業の到達目標】 1. 幼児の表現の姿や、その発達を理解する。 (1) 幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。 (2) 表現の生成する過程について理解している。 (3) 幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。 2. 身体・造形・音楽表現等の様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支える為の感性を豊かにする。 (1) 様々な表現を感じる・みる・聞く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができます。 (2) 身の周りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現ができる。 (3) 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。 (4) 協同して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。 (5) 様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。					
【授業計画】 第 1回：オリエンテーション 授業展開について 領域「表現」のねらいと内容の理解 第 2回：歌を中心とした音楽表現活動 第 3回：楽器を中心とした音楽表現活動① 第 4回：楽器を中心とした音楽表現活動② 身体表現を取り入れた表現活動 第 5回：小テスト 身の回りの素材を活かした手作り楽器製作(造形表現活動) 第 6回：まとめ発表概要提示 グループ活動① 第 7回：グループ活動② イメージを音楽・言語・身体・造形等で統合し、総合的に表現する 第 8回：まとめ発表 ICTの活用と小学校の教科とのつながり					
【評価の方法】 小テスト(40%)、課題・提出物(30%)、まとめ発表(30%)					
【授業時間外の学修（準備・復習）】 授業前後60分程度が望ましい					
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 保育者養成のための音楽表現(大学図書出版) ISBN9784909655370					
【参考書・参考資料等】 幼稚園教育要領解説(フレーベル館) 幼保連携型こども園教育・保育要領解説 保育所保育指針解説(フレーベル館)					

【授業科目名】 乳児保育 I <実務経験のある教員による授業科目>			【担当教員名】 下里 里枝		
【授業形態】 講義	【必修・選択】 必修	【授業回数】 15回	【単位数】 2単位	【開講時期】 前期	【受講対象者】 1年 (長期履修者対象外) 2年長期履修者
【授業の概要】 乳児保育の重要性が高まっており、保育所保育指針において、乳児保育および1歳以上3歳未満児保育に関する記載が充実している。授業では、3歳未満児の「保育のねらい及び内容」や、「養護と教育が一体的となって展開される」ことを理解する。乳児の発達過程や関わり、保育内容を理解することで、乳児保育に必要な基本的なスキルや知識を習得することを目的とする。					
【授業の到達目標】 1 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。 2 保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3 3歳未満児の保育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。 ※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭に置いた保育を示す。					
【授業計画】 第 1回：オリエンテーション（この授業の目的、シラバスの説明、受講者に望むこと） 第 2回：乳児保育の歴史、乳児保育の意義・役割について、振り返りシート①の記入 第 3回：乳児保育の現状、保育所保育指針における「乳児保育」の内容について、 振り返りシート②の記入 第 4回：愛着形成、手指と身体の育ち、心と言葉の育ちなどについて、振り返りシート③の記入 第 5回：0歳児の発達と保育内容 第 6回：1歳児の発達と保育内容 第 7回：2歳児の発達と保育内容、課題レポート作成 第 8回：乳児の生活の基本について、振り返りシート④の記入 第 9回：乳児の遊びについて（手遊び、おもちゃ、絵本など）ワークシートの作成 第10回：乳児保育の環境構成について、振り返りシート⑤の記入 第11回：乳児の健康・安全管理・事故予防などについて、振り返りシート⑥の記入 第12回：乳児保育における指導計画、振り返りシート⑦の記入 第13回：乳児保育を支える連携と協働について、乳児保育のICT活用について、 振り返りシート⑧の記入 第14回：保護者への子育て支援 第15回：授業のまとめ、乳児保育の今後の課題 定期試験					
【評価の方法】 授業の振り返りシート30%、ワークシート10%、課題レポート10%、定期試験50%					
【授業時間外の学修（準備・復習）】 授業の振り返り、予習、振り返りシートの作成、ワークシートの作成、課題レポートの作成など授業時間外での学修をすることで学びを深めましょう。提出物の期日を守りましょう。					
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 保育所保育指針					
【参考書・参考資料等】 授業で適宜配布する					

【授業科目名】 特別支援教育・保育概論A			【担当教員名】 清水 智子		
【授業形態】 演習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 15回	【単位数】 1単位	【開講時期】 前期	【受講対象者】 1年 (長期履修者対象外) 2年長期履修者
【授業の概要】 特別支援教育の基本的な理念について学び、特別の支援を必要とする子どもに対する正しい理解を深めるとともに、具体的な支援方法を学ぶ。また、園における支援体制、および保護者や関係機関との連携について学ぶ。					
【授業の到達目標】 (1) 特別の支援を必要とする子どもの障害の特性および発達を理解する。 (2) 特別の支援を必要とする子どもに対する教育課程や支援の方法を理解する。 (3) 障害はないが特別の教育的ニーズのある子どもの活動上又は生活上の困難とその対応を理解する。					
【授業計画】 第 1回 : 特別支援教育・障害児保育とは 第 2回 : 特別支援教育・障害児保育の理念 第 3回 : 特別支援教育・障害児保育の歴史 第 4回 : 視覚障害に関する基本的な理解と支援 第 5回 : 聴覚障害に関する基本的な理解と支援 第 6回 : 知的障害に関する基本的な理解と支援 第 7回 : 肢体不自由に関する基本的な理解と支援 第 8回 : 病弱・身体虚弱に関する基本的な理解を支援 第 9回 : 言語障害に関する基本的な理解と支援 第10回 : 発達障害に関する基本的な理解と支援 ①自閉症 第11回 : 発達障害に関する基本的な理解と支援 ②注意欠陥多動性障害 第12回 : 発達障害に関する基本的な理解と支援 ③学習障害 第13回 : 発達障害に関する基本的な理解と支援 ④発達性協調運動障害 第14回 : 外国籍や貧困を背景とした子どもたちの理解と支援 第15回 : 園における支援体制と関係機関との連携のあり方 情報共有について 定期試験					
【評価の方法】 授業の課題提出 50% 、定期試験 50%					
【授業時間外の学修（準備・復習）】 事前に参考資料を読む 復習のために授業で理解した障害の特性と支援についてまとめる					
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 適宜、資料を配布する					
【参考書・参考資料等】 文部科学省 障害のある幼児と共に育つ生活の理解と指導（令和5年3月） https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/1341233_00002.htm 実践に生かす障害児保育・特別支援教育（第2版）2024 前田泰弘編著 萌文書林 9784893474216					

【授業科目名】 子どもの造形A <実務経験のある教員による授業科目>			【担当教員名】 藤本 元美		
【授業形態】 演習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 15回	【単位数】 1単位	【開講時期】 前期	【対象学年】 1年
【授業の概要】 造形の基礎的な知識と技術を学び、現場での実践力を習得する。					
【授業の到達目標】 基本的な造形表現活動を実習し、保育者として必要な知識と技能を獲得する。					
【授業計画】 第 1回：オリエンテーション、造形表現について学ぶ 第 2回：名札づくり、着彩の色々な技法を体験する 第 3回：かぶとを作る 第 4回：鯉のぼりを作る 第 5回：トントン紙ずもうを作る 第 6回：粘土で作る 第 7回：工作材料や用具の使い方を理解する 第 8回：色彩の基礎的知識を理解する 第 9回：幼児の造形上の発達段階を理解する 第10回：児童画を模写する 第11回：パクパク人形を作る 第12回：グループで劇を上演する 第13回：スチレン版画を作る① 第14回：スチレン版画を作る② 第15回：パフェを描く 定期試験					
【評価の方法】 表現した作品を評価する。					
【授業時間外の学修（準備・復習）】 次回の授業のための材料を集めや関係資料を準備する。					
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 必要に応じて資料を配布する。					
【参考書・参考資料等】					

【授業科目名】 音楽基礎 <実務経験のある教員による授業科目>			【担当教員名】 榎本 優人		
【授業形態】 講義	【必修・選択】 必修	【授業回数】 15回	【単位数】 2単位	【開講時期】 前期	【対象学年】 1年
【授業の概要】 「ピアノ基礎Ⅰ」での授業内容とうまく連携させた上で、童謡(うた)に数多く触れる。また子どもたちの音楽表現を引き出すために必要となる、基本的な音楽理論等を理解する。 様々な伴奏型をコード奏で弾けるようになった上で、保育現場に於いて必要な音楽的能力の向上を目指す。					
【授業の到達目標】 読譜力の向上を目標に、音の高さやリズムを始めとした様々な音楽基礎となる理論等の楽典を理解し、その音楽的能力の獲得を実践へと結びつけられるようになる。また、コードを覚え様々な伴奏パターンが弾けるようになった上で、数多くの童謡(うた)を知る。					
【授業計画】 第 1回：オリエンテーション（ガイダンス）受講にあたって 持ち物・授業展開について等 第 2回：音部記号とは 楽譜に於ける各種名称について① 弾き歌い曲認知度調査 第 3回：大譜表とは 楽譜に於ける各種名称について② ハ長調のコードについて 弾き歌いを学ぶにあたり大切なこと 弹き歌いの概念について 第 4回：調号と臨時記号について ト長調・ヘ長調のコードについて 第 5回：音符の種類について 第 6回：休符の種類について 第 7回：リズム打ち 拍子について 第 8回：さまざまな繰り返し記号について おじぎの三音について 第 9回：タイとスラーの違いについて 二長調について 第10回：中間発表 「生活のうた」から1曲選択し、グループにて発表 第11回：これまでの到達度確認(小テスト実施) 子どもの楽器に触れてみる(楽器体験) 第12回：小テスト返却 今後の授業展開について 第13回：最終まとめ（発表）に向けた概要発表 発表準備① 第14回：最終まとめ（発表）に向けた発表準備② 第15回 最終まとめ（発表）					
【評価の方法】 小テスト40% 最終まとめ（発表）30% 中間発表 20% 課題・提出物等 10%					
【授業時間外の学修（準備・復習）】 授業前後60分程度が望ましい					
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 「ピアノ基礎Ⅰ」の授業内にて配布する『レッスンノート』 保育者になるためのピアノ教本（エイデル研究所）					
【参考書・参考資料等】 標準バイエルピアノ教則本 全音楽譜出版社出版部 必要に応じて適宜プリントを追加配布する					

【授業科目名】 ピアノ基礎Ⅰ <実務経験のある教員による授業科目>			【担当教員名】 榎本 優人・角谷 早希・數井 紗知 榎原 契保・福田 真梨奈		
【授業形態】 演習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 30回	【単位数】 2単位	【開講時期】 通年	【対象学年】 1年
【授業の概要】 ピアノ曲としては「バイエル」を主軸に据え、譜面等の基本的音楽事項を段階的に身に付ける。また、保育現場で必須とされている「生活のうた」「子どものうた（童謡を中心とする）」を中心に、現場で対応可能な弾き歌いの演奏能力を身に付ける。 また専任1名・非常勤講師（ピアノ講師）4名の計5名を配置した上でグループ分けを行い、個人レッスン体制を実施することで、各々のレベルに応じた指導を展開し、効率的かつ効果的な授業展開を行う。					
【授業の到達目標】 音楽に関心を持ち、その基礎知識や技術を深め、子どもの音楽活動を展開できるピアノ及び歌唱の演奏技術習得を目指す。					
【授業計画】 第 1回：オリエンテーション 受講の心得 個人レッスン担当講師の発表 レッスンノートの提示及び課題の確認 バイエル86番（長さ対比）、バイエル45番（8分音符練習） 第 2回：バイエル48番（2拍単位の付点）、「てをたたきましょう」 第 3回：ハ長調音階・ハ長調主要3和音（C/F/G・G7）コードを確認する 第 4回：「おはようのうた」「とんぼのめがね」 第 5回：バイエル58番（分散和音）、「こおろぎ」 第 6回：バイエル66番（8分の6拍子）、「あくしゅでこんにちは」 第 7回：バイエル68番・69番（3度音程）、「たなばたさま」 第 8回：バイエル103番（16分音符を用いた分散和音）、「やまのおんがくか」 第 9回：「おかえりのうた」、「おかたづけ」、「まつぼっくり」 第10回：ヘ長調音階・ヘ長調の主要三和音F・♭B・C7コードを確認する 第11回：バイエル92番（3連符の伴奏型）強弱記号を意識した表現 第12回：ト長調音階・ト長調主要三和音の確認、「おべんとうのうた」「はをみがきましょう」 第13回：バイエル61番（ト長調・2拍の付点のリズム） 第14回：前期末まとめに向けて到達度の確認 実技発表への最終準備 第15回：前期末まとめ 実技発表 第16回 後期初回オリエンテーション 前期振り返りと今後の課題曲等の確認 第17回 「どんぐりころころ」 第18回 バイエル94番（ヘ長調16分音符の伴奏） 第19回 バイエル91番（イ短調・曲中の転調） 第20回 「ゆき」「しゃぼんだま」 第21回 「とけいのうた」 第22回 「ぞうさん」「ジングルベル」 第23回 バイエル74番（3連符の伴奏） 履修曲進捗状況の確認 第24回 ニ長調の音階・主要三和音D・G・A7を学ぶ 第25回 「おはながわらった」 第26回 バイエル88番（付点のリズム・ベース音を保持した伴奏型） 第27回 情報機器を活用し、実技発表へ向けた各自演奏動画を録画し提出					

第28回 各グループにて、担当講師より提出課題へのアドバイス 実技発表へ向けた準備

第29回 後期末まとめに向けた到達度の最終確認 実技発表への最終準備

第30回 後期末まとめ 実技発表

【評価の方法】

実技発表60%（前期発表分30%+後期発表分30%） 平常実技到達度40%

【授業時間外の学修（準備・復習）】

授業前後60分程度が望ましい

【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】

保育者になるためのピアノ教本（エイデル研究所）

標準バイエルピアノ教則本 全音楽譜出版社出版部

【参考書・参考資料等】

必要に応じて適宜プリントを追加配布する

【授業科目名】 ICTの活用（応用）			【担当教員名】 平野 忠男		
【授業形態】 演習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 15回	【単位数】 1単位	【開講時期】 後期	【対象学年】 1年
【授業の概要】 保育現場におけるICT（情報通信技術）の活用について、その現状、今後の方向性を理解する。幼児教育・保育における子どもや保護者および保育者によるICT活用などを取り上げる。また、情報社会を生きていくための資質・能力である情報活用能力について、その構成要素および具体的な指導法、教育課程上の位置づけについて解説する。本科目では、演習および視聴覚資料による解説・事例紹介と、機会があれば学生自身が幼児教育・保育に活かすことができるアプリや各種ICT機器環境を活用し、体験的に学修する機会を設けることを基本とする。					
【授業の到達目標】 (1) 保育現場におけるICT活用の意義や理論について理解する (2) 保育現場におけるICT機器の活用事例について理解する (3) 情報活用能力を育成する意義を理解する					
【授業計画】 第1回：オリエンテーション・ICTを理解・活用するための基礎知識 第2回：幼児教育におけるICT教育の現状と課題：① 第3回：幼児教育におけるICT教育の現状と課題：②業務の効率化からみたICTの活用 第4回：保育者に求められる情報活用能力について① 第5回：保育者に求められる情報活用能力について② 第6回：幼児教育・保育現場における保育実践からみたICT活用① 第7回：幼児教育・保育現場における保育実践からみたICT活用② 第8回：幼児教育・保育現場における保育実践からみたICT活用③ 第9回：保護者との連携・情報発信としてのICTの活用① 第10回：保護者との連携・情報発信としてのICTの活用② 第11回：ソフト・アプリを利用した幼児教育でのICT活用企画① 第12回：ソフト・アプリを利用した幼児教育でのICT活用企画② 第13回：ソフト・アプリを利用した幼児教育でのICT活用企画③ 第14回：ソフト・アプリを利用した発表振り返り 第15回：デジタル化社会における保育の未来におけるデザイン 定期試験					
【評価の方法】 授業に対する取り組み（課題・提出物・発表など）[60%], 定期試験[40%]					
【授業時間外の学修（準備・復習）】 ・課題等に向け各自復習を行うこと。 ・1回の授業あたり予習・復習・課題などを含めて、30～60分程度が望ましい。					
【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】 ・必要に応じ適宜配布					
【参考書・参考資料等】 ・『ICTを使って保育を豊かに ワクワクがつながる&広がる28の実践』 秋田喜代美・宮田まり子・野澤祥子 編著 中央法規 ・『実践に役立つ・業務の効率化につながる保育現場のICT活用ガイド』 田中浩二 中央法規					

【授業科目名】 教育実習Ⅰ（隔週実習） <実務経験のある教員による授業科目>			【担当教員名】 専任教員		
【授業形態】 実習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 10日	【単位数】 2単位	【開講時期】 通年	【対象学年】 1年
【授業の概要】 幼稚園（認定こども園での実習） 実習園での指導のもとに、幼稚園における幼児との触れ合いや教師の援助を通して、様々な援助のあり方や教育的はたらきかけを学ぶ。見学・観察実習、参加実習を行う。 実習10日間 幼稚園（認定こども園）3園にて、3グループに分かれて実習を行う。					
【授業の到達目標】 観察及び参加並びに教育実習の理解に関する事項 1) 幼児との関わりを通して、その実態や課題を把握することが出来る。 2) 指導教諭等の実施する保育を視点をもって観察し、事実に即して記録することができる。 3) 教育実習園の学級経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解できている。 4) 学級担任等の補助的な役割を担うことができる。					
【授業計画】 (1) 実習の目標 ① 幼稚園の役割について理解する。 ② 幼稚園での一日の流れを理解して保育に参加し、幼稚園教育の実際を学ぶ。 ③ 子もとの関わりを通して幼児の発達を理解し、生活や遊びについての保育技術を習得する。 ④ 教育課程・指導計画を理解し、部分保育を体験する。 ⑤ 教材準備・環境構成など幼稚園教諭の仕事内容を理解する。 ⑥ 幼児教育への意欲を高め、保育者になることへの目標を確かなものにする。 ⑦ 教育活動のしくみや社会における幼児教育の役割について理解を深める。 (2) 実習の方法 実習については、段階的に見学・参加・指導実習を体験する。 ① 見学・観察実習 実際に教育現場を観察し、幼児の実態把握や指導方法について理解する。 ② 参加実習 参加実習で得た理解を基礎として教育活動に参加し、体験する中でより深い理解を得るもので、担任教師の指導のもとに幼児と積極的な関わりをもつ。 ・生活面の援助及び指導について学習する。 ・いろいろな遊びの様子を知る ・一日の教育活動が、幼児の主体性と指導計画のもとに展開されていることを知る。 ・教師がどのように個人や集団に関わっているかを知る。 ・担任教師の指導のもとに自ら指導計画を立案して、「部分保育」「設定保育」を体験し、保育の展開を学ぶ。					
【評価の方法】 現場評価 70% 提出物 30% ※この実習に合格できなければ「教育実習Ⅰ（集中実習）」は履修できない。					

【授業時間外の学修（準備・復習）】

- 事前にテキストブック読む。（準備）
- 実習先の幼稚園の概要を調べる。（準備）
- 手引きの内容を確認し、理解を深める。（復習）
- 部分保育のための指導案を作成する。（準備）
- 保育に必要な教材を整える。（準備）

【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】

幼稚園教育要領 幼稚園教育要領解説 保育所・施設・幼稚園実習ステップブック 第2版

【参考書・参考資料等】

教育実習 i の手引き

【授業科目名】 教育実習 I (教育実習指導 I) ＜実務経験のある教員による授業科目＞			【担当教員名】 藤田 千波・吉田 しのぶ・藤井 和子 阪本 満・平野 忠男		
【授業形態】 実習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 20回	【単位数】 1単位	【開講時期】 通年	【対象学年】 1年
【授業の概要】 ・実習におけるマナー、必要な手続き、記録の取り方や指導計画の作成方法と書式について学ぶ。 ・教育実習の基本を理解し、実習に必要な知識や技術を学ぶ。 ・事後指導では、実習で学んだことを振り返り、課題を明確にしていく。					
【授業の到達目標】 ・保育者としての専門性を身につけるために、実習の意義と目的、内容・方法について理解する。 ・観察における留意点を理解し、事実に即して正確に記述する力を身につける。 ・教材研究及び活用方法等、実習に対する知識・技術について身につける。					
【授業計画】 第 1回：教育実習指導 I について、全体オリエンテーション 第 2回：教育実習の意義と目的 第 3回：幼稚園教育の基本 幼稚園教育要領解説に基づいて 第 4回：教材研究と実践スキル 手遊び 第 5回：幼稚園教諭の一日の流れ 第 6回：幼稚園における実習生の活動 第 7回：教材研究と実践スキル ふれあい遊び 第 8回：実習におけるマナーについて 第 9回：教材研究と実践スキル 絵本・紙芝居について 第10回：教材研究と実践スキル 絵本の読み聞かせ 第11回：見学・観察実習 第12回：教育実習の手引き・ルーブリックについて 第13回：実習記録の書き方① 観察記録 第14回：実習記録の書き方② 子どもの姿 第15回：実習記録の書き方③ 環境構成 第16回：実習記録の書き方④ 保育者の援助 第17回：教材研究と実践スキル ピアノの弾き歌い 第18回：保育指導案について 保育計画の意義・指導案作成の意義 第19回：保育指導案作成 部分保育指導案 第20回：教育実習の振り返り					
【評価の方法】 学習指導内提出物 100% ※本授業は科目の性質上(教育実習実施の必修科目)特別な理由を除き、欠席は認められません。					
【授業時間外の学修（準備・復習）】 事前にテキストを読んで準備し、次回までの学習内容を確認しておく。 実習の手引きを熟読し、実習準備をする。					

【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】

- ① 幼稚園教育要領解説 文部科学省、フレーベル館、9784577814475
- ② 保育所・施設・幼稚園実習ステップブック [第2班]
山本美貴子・山本洋平(編)、みらい社、9784860155179
- ③ 保育・教育実習日誌の書き方 [改訂版] 小泉裕子、中央法規、9784815882184
- ④ [改訂2版]これだけは知っておきたい 保育のマナーと言葉
長嶋和代、わかば社、9784907270353

【参考書・参考資料等】

教育実習I の手引き

【授業科目名】 保育実習 I <実務経験のある教員による授業科目>			【担当教員名】 専任教員		
【授業形態】 実習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 保育所 10日間 施設 10日間	【単位数】 4 単位	【開講時期】 通年	【対象学年】 1年 (長期履修者対象外)
【授業の概要】 <ul style="list-style-type: none"> ・保育所と施設において、各10日間（80時間）学外実習を行う。 ・保育所や施設で生活する子どもや利用者の様子、保育士の職務、施設の機能及び役割等について、保育士等の指導の下で、体験的に学ぶ。 					
【授業の到達目標】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や関わりを通して、子どもや利用者への理解を深める。 3. 子どもの保育及び利用者への支援について総合的に学ぶ。 4. 保育（養護・支援）計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。 					
【授業計画】 1. 集中実習（保育所） 9月 10日間 <保育所実習の内容> (1) 保育所の役割と機能を具体的に理解する。 ① 保育所の生活と一日の流れ ② 保育所保育指針の理解と保育の展開 (2) 観察や子どもとの関わりを通して、子どもへの理解を深める。 ① 子どもの観察とその記録による理解 ② 子どもの発達過程の理解 ③ 子どもへの援助やかかわり (3) 保育内容・保育環境について理解する。 ① 子どもの発達過程に応じた保育内容 ② 子どもの生活や遊びと保育環境 ③ 子どもの健康と安全 (4) 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 ① 保育課程と指導計画の理解と活用 ② 記録に基づく省察・自己評価 (5) 専門職としての保育士の役割と職業倫理について具体的に学ぶ。 ① 保育士の業務内容 ② 職員間の役割分担や連携 ③ 保育士の役割と職業倫理 2. 集中実習（施設） 2・3月 10日間 <居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における実習の内容> (1) 施設の役割と機能 ① 施設の生活と一日の流れ ② 施設の役割と機能 (2) 子どもや利用者の姿を知り、正しく理解する。					

- ① 子どもや利用者の観察とその記録
 - ② 個々の状態に応じた援助やかわり
- (3) 養護内容・生活環境について理解する。
- ① 計画に基づく活動や援助
 - ② 子どもや利用者の心身の状態に応じた対応
 - ③ 子どもや利用者の活動と生活の環境
 - ④ 健康管理、安全対策の理解
- (4) 計画と観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。
- ① 支援計画の理解と活用
 - ② 記録に基づく省察・自己評価
- (5) 専門職としての保育士の役割と倫理について具体的に学ぶ。
- ① 保育士の業務内容
 - ② 職員間の役割分担や連携
 - ③ 保育士の役割と職業倫理

【評価の方法】

現場評価 70% 提出物 30%

※「保育実習Ⅰ」の保育所実習に合格しないと、2年生時の「保育実習Ⅱ（保育所）」は履修できません。

【授業時間外の学修（準備・復習）】

実習前、実習の手引きをしっかり読み、事前レポートおよび教材研究を行う。

毎日の実習終了後、実習記録を書き、次の日の実習目標を立てて準備する。

実習後、実習の振り返りを行い、事後レポートに取り組む。

【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】

【参考書・参考資料等】

保育実習Ⅰの手引き（保育所・施設）

【授業科目名】 保育実習指導 I <実務経験のある教員による授業科目>			【担当教員名】 藤田 千波・吉田 しのぶ・藤井 和子 阪本 満・平野 忠男		
【授業形態】 演習	【必修・選択】 必修	【授業回数】 40回	【単位数】 2単位	【開講時期】 通年	【対象学年】 1年
【授業の概要】 <ul style="list-style-type: none"> ・実習における学びを有意義なものとするために、実習の意義・目的を理解するとともに、実習内容を理解する。 ・観察や記録の仕方、内容などについて学習する。 ・教材や教具の活用の仕方、保育技術を進めるうえでの配慮点などを学習する。 					
【授業の到達目標】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。 					
【授業計画】 <p>第 1回 : 保育実習 I について 全体オリエンテーション</p> <p>第 2回 : 保育実習の意義と目的</p> <p>第 3回 : 保育所の役割と一日の流れ</p> <p>第 4回 : 実習記録の書き方 観察の方法と記録</p> <p>第 5回 : 実習記録の書き方 乳児クラスの環境構成</p> <p>第 6回 : 実習記録の書き方 乳児クラスの保育者の援助</p> <p>第 7回 : 保育指導案の作成 保育計画・指導案作成の意義</p> <p>第 8回 : 保育指導案の作成 子どもの年齢に応じたのねらい・内容</p> <p>第 9回 : 保育指導案の作成 保育指導案における保育者の援助</p> <p>第10回 : 教材研究と実践スキル 身体表現</p> <p>第11回 : 教材研究と実践スキル 集団遊び</p> <p>第12回 : 保育実習 I (保育所) の手引きとループリック評価について</p> <p>第13回 : 保育実習 I (保育所) での自己課題の立て方</p> <p>第14回 : 保育実習 I (保育所) についてオリエンテーションの申し込み・受け方</p> <p>第15回 : 保育現場の講師による講和</p> <p>第16回 : 教材研究と実践スキル 手作り遊具計画(グループワーク)</p> <p>第17回 : 教材研究と実践スキル 手作り遊具づくり</p> <p>第18回 : 教材研究と実践スキル 手作り遊具を使って模擬保育</p> <p>第19回 : 教材研究と実践スキル 手作り遊具を使って模擬保育</p> <p>第20回 : 教材研究と実践スキル パネルシアター作り</p> <p>第21回 : 教材研究と実践スキル パネルシアター作り</p> <p>第22回 : 実習後の振り返り及びお礼状の書き方</p> <p>第23回 : 保育実習 I (保育所) 報告会</p> <p>第24回 : 施設実習の意義と目的</p> <p>第25回 : 先輩から学ぶ施設実習</p>					

第26回：施設の種別について
第27回：児童養護施設について
第28回：児童養護施設の見学
第29回：乳児院について
第30回：児童発達支援施設について
第31回：障害者施設について
第32回：障害者施設見学
第33回：施設職員の方による講和
第34回：施設実習の手引きとループリック評価について
第35回：実習生としての心構え 人権と最善の利益の考慮
第36回：施設実習での自己課題の立て方
第37回：施設実習記録の書き方
第38回：実習先発表 実習先理解
第39回：教材研究と実践スキル レクリエーションについて
第40回：実習事前準備 及び 最終確認

【評価の方法】

授業で課すワーク及び提出物による評価 100%

※ 本授業は科目の性質上(教育実習Ⅰ実施の必須科目)特別な理由を除き、欠席は認められません。

【授業時間外の学修（準備・復習）】

事前にテキストを読んで準備し、次回までの学習内容を確認しておく。

実習の手引きを熟読し、実習準備をする。

【テキスト名・著者名・出版社名・ISBN番号】

- ① 保育所保育指針解説、フレーベル館、9784577814482
- ② 保育所・施設・幼稚園実習ステップブック[第2版]
山本美貴子・山本洋平(編)、みらい社、9784860155179
- ③ 保育・教育実習日誌の書き方[改訂版] 小泉裕子、中央法規、9784815882184
- ④ [改訂2版]これだけは知っておきたい 保育のマナーと言葉
長嶋和代、わかば社、9784907270353

【参考書・参考資料等】

保育実習Ⅰの手引き